

相国寺御用達

京名菓

雲龍

雲龍は、俵屋吉富の七代目店主が相国寺所蔵の「雲龍図」(狩野洞春筆)に感銘を受け、うねる雲間を飛翔する力強い龍の姿を表し創作した一世の名菓です。

大粒の丹波大納言小豆をはじめ、吟味を重ねた最高級の素材を用い、現在も変わらず、熟練された職人の手で、一本一本丁寧に作りおとしています。

大切な方への心を込めた贈り物に、

京名菓 雲龍をどうぞ…。



京菓子司 俵屋吉富

本店

京都市上京区室町通上立売上ル

電話 ☎ 432-2211

烏丸店

京都市上京区烏丸通上立売上ル

電話 ☎ 432-3101

平成二十五年 円明夏号(第一〇〇号 記念号)



大本山相国寺
相国会本部



総代・工事関係者ら多数が列席

大辨財尊天 堂宇修復落慶法要

平成二十五年四月二十二日

(本山日より78ページ参照)



「祝語」を唱える管長狛下



暑中お見舞い申し上げます

平成二十五年 盛夏



●表紙写真

『圓明』

後水尾天皇筆 江戸時代 相国寺藏 紙本
本紙部分 縦五十七・六×横三十七・六cm

後水尾天皇(一五九六一―一六八〇)の宸翰(天皇自筆の文書)「円明」(旧字で「圓明」)。尚、開山夢窓国師像を安置する開山堂「円明塔」には、上記の写真のように同字を刻した勅額が掛けられています。

祝『円明』創刊100号

相国寺承天閣美術館

祝『円明』創刊100号

財団法人 萬年会



絵馬堂(前)と拝殿(奥)



本殿



手水舎



修復され再び本殿内に安置された「大辨財尊天像」

相国寺「大辨財天」について
 この辨財尊天社は、棟札によると延宝四年(一六七六)九月に建立され、京都御苑内の久遊宮邸守護神として奉祀されていたもので、明治十三年(一八八〇)に宮家が東京へ移転された時に、相国寺の荻野独園禪師が朝彦親王より寄進を受け、五年後に境内に移築されたものです。
 また辨財尊天像は、頭部に人頭蛇身の宇賀神を頂き、穀物の神、転じて福の神、芸能の神として広く信仰を集めています。
 本殿は春日造の小社で、平成十九年(二〇〇七)に京都府指定有形文化財に登録されています。
 昨年より全面的に堂宇の修復工事を開始し、この度「本殿・拝殿・絵馬堂・手水舎」四棟の落慶に至りました。



管長 大龍窟 有馬頼底

「円明一〇〇号を記念して」

『円明』が第一〇〇号となり、心よりお慶び申し上げます。

私が、本誌編集を担当する教学部に入部したのは、昭和四十六年であったと思います。まず一番に取り組んだのは方丈の「襖絵」と伊藤若冲筆の「釈迦三尊像」についての

記事でした。これは私のライフワークであり、初めてにしてはよく書けたと思います(『円明』第十八号)。当時の宗務総長、久山忍堂長老は「あんたは、よう知つとるなあ。」と言つて下さつたのを覚えています。

その頃に比べ、今は誌面も充実しており、特に私の本派寺院巡教のありさまも詳しく掲載され、末寺全般にわたつて周知されていることは誠に慶賀の至りと思っております。今後も編集、出版作業に益々ご精進され、愈々本派寺院、相国会会員の皆様をはじめ多くの読者の為に、さらに内容充実されん事を切に祈念するところであります。



宗務総長 山木康稔

相国寺派のご住職、寺庭さん方はじめ檀信徒及び相国会会員の皆様には御健勝にて、お過ごしのことと拝察申し上げます。

さて、平成二十五年夏号の当該『円明』は、第一〇〇号記念を迎えることになりました。当初から年二回発行ですので五十年目に当たります。

『円明』が徐々にではありますが、発展を続けて参ることが出来ましたのも、一重に投稿して下さいます関係各位の絶大なる御支援の賜物と感謝する次第であります。

今さら申すまでもありませんが、表題の『円明』と題されていますのは、

相国寺のご開山夢窓国師が安置されています開山塔を「円明塔」と称しており、これを題字としています。

この『円明』は伝道誌であり、広報としての役目も持たせ少しでも皆様の心に潤を及ぼし、ご開山の遺徳を拝し、ご縁ある相国寺一派の皆様と共に円融無礙結束して発展に寄与して参りたいと存じます。

改めて、創刊号の年であり又月でもありました昭和三十八年は、法堂（附玄関廊）に祝砲ならぬ大音響を伴って、落雷（八月二十四日）があり、大棟西側の鬼瓦に、上空で二方向に分れた一方が落ち、特に玄関廊の西南角柱に向って下って来た電流は柱を細く残し、大部分を一本として西側通路に柱の大木を十米弱北西にふっ飛ばしました。分れたもう一方は西方百米程の民家の一角にありました工場に落ち、ボヤで煙が上がり消防車が出動して来る有様でした。

しかし、法堂本体に大きな傷あとを残さなかったのが不幸中の幸いでした。これとても、禅宗寺院では一般に年中行事となって居りますが、当山では毎月の法堂内法要の中で火難消除の神「南方火徳星君」碑に



向い、諷経・回向を行っている加護(おかげ)ここにありと感応する次第であります。

そして、これを機に相国寺の防災意識が急速に昂揚し、翌昭和三十九年六月には法堂、諸堂防雷設備工事が完成しました。

更に同四十五年には総合防災工事に着工し、火災報知機の設置から始まって、同四十八年五月には総合防災工事が見事に完成したのであります。防災工事も落雷が契機となって、相国寺の場合には完全な形で工事が進行完了し、「禍福は糾^{あひな}える繩の如し」と申しますが正にその通りになったといえましょう。

降って、昨年五月七日に起工式を行いました辨財^{べんざい}天舎は本殿、拝殿、絵馬堂、手水舎^{ちようずや}すべて修復工事が完了し、去る四月二十一日落慶法要を厳修しました。又平成二十二年九月一日大方丈^{だいほうじやう}の修復起工式、同二十五年八月三十一日完工予定で、程なく修景などを施して同年十月九日待望の落慶法要の運びとなり、以後は開山忌、懺^{せん}法会^{ぽうえ}、拝観等に十分な活用が期待されるところであります。

本号では『円明』一〇〇号、五十年間の歩みを回顧する意味で、特筆事項を抜粋した年表を掲載しましたのでお目通し願います。



『円明』のあゆみ

『円明』発刊の経緯

教学部 江上正道

『円明』は、今号で節目の第一〇〇号を迎えることになりました。本誌は今からちょうど五十年前の昭和三十八年（一九六三）八月一日付で発行された相国寺派の機関誌です。以来宗務本所教学部が編集の中心となり、本派寺院の相国会会員の皆様をはじめ多くの読者に多岐にわたる記事をお届けしてまいりました。

本誌創刊号をひも解くと、当時の相国寺派管長猥下、大津樞堂老大師の「祖師の御遺範を顧みて」という巻頭言があります。

り上る力によって開山国師の遺徳風光を心に、能く報恩護持あらんことを、念ずること切なるが故であります。円明の遺徳偲べば風薫る。」と締めくくっておられます。

また同じく当時の宗務総長、村上慈海長老の「発刊の御挨拶」には、「さて、過年来、本派宗会や、本山寺務所で、度々お話が出ましたところの本派の機関誌、機関誌などと申しますと大そう大げさになりますが、この度『円明』と名づけて発刊することになりました。漸くにして、かねての宿願の一部をはたして、門末方の御要望の一端にお応え出来るかと存じます。」と多くの要望を受けて発刊に至った経緯が記されております。

機関誌名については「題名を『円明』といいたしましたのは、本派の法源道場である大本山相国寺の開山堂を「円明塔」と申します

その冒頭に「この度、多年念願して止まなかった『円明』が、創刊されるに至りましたことは、欣快に耐えませぬ。」とあり、また「ささやかなる、この伝道誌『円明』ではありますが、その名に恥じず大きな心の糧となり生活の共となることを、刊頭に当りひたすら念願致します。」と創刊にあたって述べられておられます。

そして文末で「世の中の事々物々、それぞれ立場にあつて永遠の即今いまを生き、何の支障もなく、相侵することなく、円融無碍にして、願わくば、縁あるもの一丸となって、盛るので、開山国師の御徳により本派の教派があまねく円かに、国師の法燈がとこしなえに世間を照らし明あきらさんことを祈念して題名といたしましたもので・・・」とあります。

両師の文章から、本誌の発刊は一派や各所からの強い要望があつてのこと、本誌タイトルは夢窓国師を祀る開山堂を「円明塔」と称することに起因することがわかります。ちょうど今号の表紙を飾りましたのが、後水尾天皇の宸翰しんかん（天皇自筆の文書）「円明」で（旧字で「圓明」と書かれている）、開山堂「円明塔」内にも同字を刻した勅額が掛けられています。

本誌は、主に相国会会員向けの機関誌ですが、相国会の会員とは、同会則を参照し要約すると、「本派寺院の檀徒及び本会の趣旨

目的に賛同する信徒を主な会員とし、本末檀信一体となり、大本山相国寺及び本派を護持して宗門興隆発展に寄与することを目的として、文書伝道、会報、研修会などの事業を行うことを業務とする」とあり、相国寺派各寺院の檀信徒の皆様はすべて会員であるといえるでしょう。また『円明』は事業のうちの「文書伝道、会報」の部分に相当します。

創刊号の「本山だより」に、昭和三十八年三月二十六日に「出雲相国会支部発会式」、第五号には昭和四十年三月二十八日「若狭相国会支部発会式」の記事が見られ、早くからそれぞれの教区では支部を結成し、会員活動や本山への参拝が行われてきました。したがって、早くから諸活動が盛んに行われており、それを伝える会報を望む声が出たであろう事は容易に考えられ、本誌はその

での十二日間、インド各地の仏蹟巡拝と納経法要が厳修されました。

また、昭和五十七年十一月八日・九日の両日には「相国会青壮年代表者研修会（現相国会本部研修会）」を開催し、これ以降相国会本部や各支部主催の研修会が、長く行われてまいりました。読者の中には、これらの研修会にご参加頂いた方も数多くおられることでしょう。

B6判の単色で発刊した本誌は、その後第二十号から表紙のカラー化、第二十九号からは表紙にカラー写真を使用するなど順調に体裁を整え、また発行部数も増加してまいりました。現行のA5判にサイズが拡大されたのは、平成九年に行われた相国寺二世「普明国師六百年遠諱」の特集号にあたる第六十九号からで、以後は管長猥下の御親教特集をはじめカラーの特集ページも

の潮流に乗せられる形で発刊に至ったともいえるでしょう。

そして念願の「相国会本部」が結成されたのは、昭和五十四年六月二十六日のことで、発会式が方丈で厳肅裡に開催され、以後本部を相国寺内に置くことになりました。さらに、翌年二月二十四日には鹿児島・宮崎教区において「相国会九州支部」が、十一月八日には第二教区で「相国会支部」が相次いで結成され、ここに今日に至る体制が整うこととなります。

昭和五十五年六月に第一回「相国会本部役員会」が開催され、相国会本部発足記念の特別事業として企画されたのが、「インド仏蹟巡拝納経の旅」です。インドのブツダガヤ日本寺に「般若心経」の写経を納経するため、本派全寺院檀信徒、相国会会員に写経依頼がなされ、同年十二月三日より十四日ま

組まれるようになり、今日に至ります。

村上慈海長老は、前記の文章内で「衆生本来仏なりと申しますが、その御仏が、一瞬の心の動きが『円明心』であり、身に体して行動すれば夢窓国師の御心にもかなうこと」と述べられておられます。

これまでに原稿を執筆いただいた多くの筆者の皆様、広告を長年にわたりご提供いただいている各社様に感謝し、また年に二回発行の本紙編集に携わってこられた歴代の教学部諸師（有馬頼底現管長猥下も同職にあり執筆・編集に長く携わられている）へ敬意を表し、次号以降も毎号の誌面充実、読みやすい記事、そして何よりも相国会会員の皆様の「心のよりどころ」となるよう編集作業に邁進してまいります。

昭和38年8月1日

機関誌『円明』創刊

8月24日

法堂、附玄関廊落雷

10月

方丈大修理完工

10月15日

大象窟大津樞堂相国僧堂師家隱退

止々庵梶谷宗忍老師就任

39年6月

法堂、諸堂防雷設備工事完成

40年10月6日

銀閣寺東求堂解体修理落慶

41年6月

宗務総長村上慈海長老(鹿苑寺住職)臨濟祖塔参拝団員として渡航

42年7月

鳳林承章禪師(一五九三〜一六六八鹿苑寺住職)の遺稿『隔莫記』(三十三年間の日記)の活字出版化が完成(後に全七巻で復刊)

43年1月1日

『円明』第十号

44年11月10日

夜の拝観(大阪万博を期に) Nコース受入

45年

総合防災工事中着工(火災報知器設置、ポンプ室・境内導水管埋設・消火栓、山内寺院と本山モニターで全連繫他)

47年1月1日

新宗制発布

48年5月

総合防災工事了

9月1日

『円明』第二十号(表紙カラー印刷化)

50年

円明塔(開山塔)の「殿鐘」を再鑄

51年5月18日

相国寺派第五世大津樞堂管長遷化

6月21日

同第六世梶谷宗忍管長相国寺住職に就任

10月8日

臨時宗会開催 宗忍管長視察開堂の件

52年5月10日

梶谷宗忍管長就任視察開堂

53年7月1日

『円明』第二十九号(表紙カラー写真化)

54年1月1日

『円明』第三十号

55年6月

「相国会本部」発会式

55年6月

「相国寺婦人会」解散

6月5日

第一回「相国会本部役員会」開催

12月3日

相国会本部発足記念「インド仏蹟巡拝納経の旅」(十二日間)

56年11月12日

宝物館「相国寺霊宝殿」起工式(この時はまだ「承天閣美術館」と命名されていなかった)

57年7月20日

夜の拝観終了

7月29日

第一回「衆団得度式」を初めて行う(十一名受戒)

10月

第一回「寺庭婦人研修会」開催

11月7日〜8日

第一回「相国会青壮年代表者研修会(現相国会本部研修会)」開催

58年4月15日

「日中友好の翼(第二次)」本派十一名参加

6月1日

「承天閣美術館竣工式」

7月20日

『円明』第四十号



『円明』第23号



『円明』創刊号

昭和62年10月19日 鹿苑寺「金閣」修理落慶
 12月1日 庫裡事務棟落慶式
 63年7月1日 『円明』第五十号
 12月21日 総門解体修復落慶法要

平成1年12月1日 相国寺用達組合「相楽社」結成
 2年4月26日 法堂修復起工式
 11月4日 辨天社修復落慶
 3年1月17日 相国寺創建六〇〇年記念「相国、金閣、銀閣寺展」東京高島屋の他 横浜、名古屋、大阪にて開催
 4年11月6日 中国開封「大相国寺」と友好寺院提携調印
 5年7月15日 『円明』第六十号
 7月27日 第二回「衆団得度式」(十五名受戒)
 6年4月8日 中国開封「大相国寺」と友好寺院締結記念碑建立除幕式(庫裡前西南側に碑あり)
 7年1月16日 梶谷宗忍管長遷化
 1月17日 阪神・淡路大震災(第三教区 継孝院神戸市垂水区 山門被害大)
 5月1日 相国寺派第七世有馬頼底管長相国寺住職に就任
 9年4月10日 法堂修復落慶法要
 5月18日 有馬頼底管長就任視察開堂
 10月3日～5日 普明国師(春屋妙葩禪師)「六百年遠諱報恩大摂心」



『円明』第41号

10月21日・22日

普明国師「六百年遠諱 宿忌・半齋」

10月24日～26日

同右授戒会(一日授戒会)挙行

11月15日

北山殿(義満公)創建六百年閣懺法(於鹿苑寺)

11月16日

同右 慶讃法要(於鹿苑寺)

10年1月1日

『円明』第六十九号(サイズをB6判からA5判へ変更・グラビア記事のカラー化)

5月

「大象窟慈像」(伊万里圓通寺長谷川大道老師作)法堂北入口内東側安置

8月1日

『円明』第七十号

11年2月15日

法堂「大涅槃画像」修復完了法要

11年

「教化活動委員会」発足

11年

「古都税」ならびに「都市景観問題」

12年4月1日

京都市と京都仏教会が和解

12年

相国寺春秋二季特別拝観開始

13年3月24日

相国寺、承天閣美術館、鹿苑寺、慈照寺公式ホームページ開設

14年4月29日

藤原定家卿・足利義政公・伊藤若冲居士墓所改修竣工

5月12日

東京都港区南青山に「相国寺東京別院」開設
 「東京維摩会」別院にて開講



『円明』第69号

平成14年10月

開山夢窓国師(夢窓疎石禪師)「六百五十年遠諱」

15年

鹿苑寺「金閣」柿屋根替及金箔修復張替工事落慶法要

8月1日

『円明』第八十号

11月22日・23日

第一回「管長御親教」(第六教区 鹿児島県 六ヶ寺)

16年2月25日

萬野美術館(閉館)より国宝、重文、重美等二三三点寄贈

4月27日

鹿苑寺客殿落慶

5月6日

鹿苑寺開基義満公「六百年忌」予修記念『能』「自然居士・融」(於本山法堂)

5月9日

同右 「開山夢窓国師六百五十年遠諱・開基義満公六百年忌」(於鹿苑寺)

5月11日・23日(内六日)

同右 六家元献茶式(於鹿苑寺金閣)

10月22日・23日

第二回「管長御親教」(第六教区 宮崎県 六ヶ寺)

17年1月15日

承天閣美術館第二展示棟地鎮祭 (注)「若冲展」を指して当棟を計画す。

3月16日

慈照寺「東求堂」屋根替落慶法要

9月24日・25日

第三回「管長御親教」(第三教区 兵庫県、三重県 四ヶ寺)

18年6月23日

第四回「管長御親教」(①第三教区 旭川 明覚寺)

9月2日

第四回「管長御親教」(②第三教区 高知県、兵庫県 三ヶ寺)

9月16日

大阪国立文楽劇場「相国寺観音懺法」厳修 一山出頭

11月17日

慈照寺売店落慶

19年4月15日

常光国師「六百年遠諱」、西笑和尚「四百年遠諱」、開基足利義満公「六百年忌」法要

5月12日

承天閣美術館第二展示棟落慶法要「若冲展」開催

9月1日・3日

第五回「管長御親教」(第四教区 若狭おおい町 九ヶ寺)

10月

「寺庭婦人研修会」中国大相国寺他訪問

11月

鹿苑寺方丈修復(解体、発掘)落慶法要

20年5月8日

相国僧堂師家拈華室田中芳州老師遷化

7月29日

第三回「衆団得度式」(八名受戒)

8月1日 『円明』第九十号

9月28日・30日

第六回「管長御親教」

(第四教区 若狭高浜町 十一ヶ寺)

10月8日

相国僧堂鞆光室小林玄徳老師入院式

10月19日

フランス・パリ「相国寺・金閣・銀閣名宝展」(於プチパレ美術館)出陳

11月6日

再住、住持「授帖式」

21年9月

第七回「管長御親教」(第四教区 若狭高浜町 九ヶ寺)

22年

沖繩県に新寺「通天寺」落慶法要

9月1日

本山大方丈修復起工

9月27日・28日

第八回「管長御親教」(第五教区 出雲市 六ヶ寺)

23年3月11日

東日本大震災(福島原発大事故災害)



『円明』第93号

平成23年8月1日 中国「大相国寺」より寄進大梵鐘撞初め(天響楼)

9月27日～29日

第九回「管長御親教」(第五、三教区 出雲市、鳥取県 六ヶ寺)

24年3月25日～30日

アメリカ・ワシントンD.C.桜祭り「若冲釈迦三尊及動植綵絵三十三幅展」

(於ナショナルルギヤラリー) 出陳ならびに記念法要

5月7日 辨天社修復起工 (注)今回は全棟解体修復

7月27日 東京別院庫裏落慶

8月21日 「広島被爆楠木製聖観音菩薩」開眼法要

9月26日・27日

第十回「管長御親教」(第二教区 京都府 五ヶ寺)

25年4月21日 辨天社(本殿、拜殿、絵馬堂、手水舎)修復落慶、辨財天像修復安座

8月1日 『円明』第一〇〇号発刊

9月26日～29日

第十一回「管長御親教」(第二教区 京都市 八ヶ寺)(予定)

10月9日 方丈修復落慶(予定)

承天閣美術館開館三十周年記念

「円山応挙展」開催(予定)



『円明』第一〇〇号によせて

『円明』第一〇〇号によせて

第一教区 宗務支所長
養源院住職

平塚景堂

『円明』誌第一〇〇号発行おめでとうございます。歴代教学部諸師の不断の努力の賜物と拝察申し上げます。つきましては相国寺派第一教区宗務支所長として記念号に寄稿させていただきます。

相国寺派第一教区は本山と塔頭たっちゆう十五ヶ寺によって構成されています。うち山外塔頭が鹿苑寺・慈照寺・眞如寺の三ヶ寺となります。この塔頭という呼称は禅宗特有のもので本山と塔頭とが複合寺院として、「一山いっさん」と称するひとつの運命共同体になっています。なぜこのような形態が生じたか、玉村竹二氏の研究を簡略にご紹介します。

鎌倉から室町にかけて禅宗寺院は幕府の統制をうける五山制度(五山・十刹・諸山)が整いますが、特に五山には僧侶の数も多く、隠居の老僧は東堂・西堂といった施設に入り、亡くなると山内に墓を建てるようになります。その墓を供養・保守する施設が塔院で、塔院の内で主だったものを塔頭と称しました。しかし時代を経るに従って当然ながら塔頭も増えてゆき、塔頭とただの塔院を区別すべく制度化されます。つまり幕府の認定がなければ塔頭と称せなくなります。それによって塔頭がただの塔院ではなく、山内派閥

のエレメンツ的な役割を持つことになります。さらに五山の住持になるような高僧は生前から庵居と称して個人的な隠居所を山内に設けるようになり、これらも塔頭と認定されました。その結果、塔頭寺院は一派の僧侶によって歴代相伝され、きわめて強い権力を持ち、各塔頭には末寺が付属するに到ります。現在の本末寺院関係は本山と末寺ですが、元来本山の直末はなく、末寺はみな塔頭の派閥に付属していました。いま『臨黄寺院名鑑』を開きますと、末寺が属する派の塔頭名が出ています。妙心寺派は寺院宿坊、黄檗宗は寺院法系、南禅寺派は宿院、大徳寺派・方広寺派・永源寺派は本庵といった名称で塔頭名が挙げられています。ちなみに相国寺派は名鑑に明示しておりませんが塔頭派は常徳派・雲頂派・慈照派の三派が法類グループとして残っています。

さて、こうした塔頭と末寺との法系を通じたつながりは江戸時代になって大きく変貌します。相国寺史編纂研究員の藤田和敏氏の調査・研究をもとに略述してみましよう。

「禅宗済家 五山相国寺本末牒 五山第二」(天明期)という史料では寺領の石高があり、その内訳として塔頭四十八ヶ寺、十刹三ヶ寺、末寺七十五ヶ寺があり、末寺は言うに及ばず十刹・諸山も五山たる本山の直末になっていることがわかります。つまり形式的には本山以外はすべて末寺として本山の直接統制下にあり、塔頭派に末寺が属するといふ形は消滅しています。ところが享保年間の史料では、塔頭光源院と若狭園松寺とのや

り取りがあり、それによると園松寺の住職後継問題と塔頭寺院（現在の宗務支所）の安堵の請願を、本山参暇寮（現在の宗務本所）に提出する前に、本庵の光源院に打診・口添え依頼しています。こうした末寺の人事や寺務問題の決定に実質上は本庵塔頭が強い影響力を維持していました。おそらく当時も本山の運営をしていたのは塔頭寺院の和尚方であったでしょうから、本山直末といえども末寺にとって塔頭派閥が隠然として存続していたのでしよう。

現代では塔頭寺院が末寺に影響を持ちませんが、宗務本所と宗務支所といった寺務上の流れのほかに、住職の交流に関しては依然として法系の流れ、すなわち塔頭と末寺との歴史的経緯の余韻が残っているようです。それもまた大切にすべき因縁ではないでしょうか。



「慣れ」

相国会会長
第一教区 相国会理事 片岡匡三

相国僧堂の「侍者寮」（役位の雲水が入る）の中に「延寿堂」の二部屋があります。縁あって、叔父片岡仁志がそこに寄寓していました。その頃、私はこれまでの惰性に流されて漫然と生きてきた生活を何としても打破しなければいけないと痛感していました。それには生活環境を変える以外にないと思い、叔父に相談しました。「飯炊き覚悟で来るなら来い」のひとこと。一から出直す決意をして札幌を発ちました。昭和二十四年三月、高校二年を終えて、これから三年生の生活に入る時です。僧堂に着いてまず、想像外の静謐、厳粛な雰囲気、身の引き締る思いがしました。禅堂での雲水のみなさまの真剣な命がけの求道の姿に驚嘆しました。日曜日、大光明寺での維摩会に参加を許され、錚々たる居士のみなさまの中での坐禅。僧堂とは違った趣きがありました。この時初めて無為室山崎大耕老師のご指導をいただきました。

一方、延寿堂の生活は「自炊」で始まりました。経験は全くありません。侍者寮の北西隅の濡れ縁に「コンロ」を置き、消し炭で火を熾し、ご飯を炊き、味噌汁を作り、部屋を整えて「般若心経」と「五観文」を唱和し、叔父と二人でいただきました。毎朝、バケツ一杯



延寿堂の縁にて(昭和28年頃) 片岡仁志氏(京都大学教授・左)と峰松宗徹禪師(右)

の水を「典座寮」(台所)

にいただきに行きます。

典座は清潔です。一粒

の米も野菜の端切れも

一滴の水も粗末にはで

きません。また、そこで

のみなさんの真摯な態

度、機敏な動作には驚

きました。一瞬一瞬の

動きに魂を打ちこんで

います。強烈に心打た

れました。私はこの濡

れ縁での食事の用意が

最初のころは仲々手順

よく上手にできず焦り

ました。やっと少しず

つ要領がわかりかけてきました。そんな時です。たまたま食後の後始末をして食器を洗い終え、バケツ一杯の洗い水を勢いよく「パーッ」と裏手にある茶畑に捨てました。延寿堂の裏手には立派な茶畑があります。この茶畑は番茶として僧堂で使うために大切に栽培しているのです。根もとに水をすてるように言われていました。しかしその時にはなぜか何も考えずに直接、茶畑に向かって勢いよく捨てたのです。その瞬間です。何かを感じて、ちらつと禅堂の方を見ました。何と、禅堂裏の東端、作業小屋の手前に、大象窟(だいざうくつ)大津樞堂老師がこちらをじっと見つめて立っておられたのです。私は一瞬、直立不動。水ついたまま頭を下げました。「雷」が落ちるのを覚悟しました。そつと頭を上げてそちらを見るともうそこにご老師のお姿はありません。何のお咎めもないま、数日がたちました。四日目、何と大工さんが濡れ縁に沿って立派な「水屋」を作ってくれたのです。「ご老師のお計らいです。」と後ほど直日(じきじつ)さんからお聞きしました。僧堂には一切不必要な建造物はありません。にもかかわらず、ご老師は「水屋」を造って下さいました。私はご老師の御慈悲と御温情に感激しました。感謝の念でいっぱいになりました。六十数年(にが)前の苦い思い出ですが「慣れ」と心の「油断」を戒める事件として、今も深く、重く心に刻ざまれています。

『円明』第一〇〇号によせて

第二教区 宗務支所長
竹林寺住職

牛江宗道

機関誌『円明』が、昭和三十八年に第一号が発行されてから、本号で第一〇〇号の節目を迎えましたことは、宗門人にとりましては、誠に喜ばしい限りであります。本派檀信徒の皆様方への布教伝道のため、今日まで年二回一度も跡切れることなく発刊され続けて来られた歴代の教学部並びに宗務本所の皆様方の御努力に対して、満腔の敬意と謝意を表しますとともに、仏教への信頼と信心が希薄になりつつある今日、なお一層の御精進をもって、『円明』誌の内容の充実をお願い致します。また、我々末寺の僧侶も檀信徒も協力して、原稿をお届け致したく存じます。

さて、現大龍窟管長猥下のご発案で、本派末寺を視察巡教する「御親教」が平成十五年、第六教区から始まりまして、今年で十一年目になりました。第二教区に於きましては、昨年、美山の光照寺、亀岡の大雲寺・福性寺・神昌寺、嵐山の藏泉寺の五ヶ寺を御親教賜りました。今年は、残りの京都市内八ヶ寺を御親教して頂くことがすでに決定しております。管長猥下に於かれましては、来年沖繩の通天寺を御親教されて、第一教区十六ヶ寺を除く本派すべての末寺の御親教が無事円成される事になり、宗門人にとりましては、これまた大きな喜びであります。

管長猥下をお迎えするにあたっては、各末寺は数年前から、住職を中心として檀信徒と一丸となって、一点の手抜きも無きよう、その準備にあたります。障子の張り替え、畳替えはもとより建物の補修から庭を含めた境内の整備等、最善を尽くしてお迎えにいたします。その結果、末寺の外観は見事に蘇り、住職檀信徒ともども多いに喜んでおります。御親教の功德はそれだけにとどまらず、住職と檀信徒とのコミュニケーションが深まります。また、支所長を務めさせて頂いて気付いたことですが、この御親教のお蔭によって、教区内の他のお寺の檀信徒の皆様方と親しくなれたという事でもあります。相国会第二教区支部の運営に多いに役立つだろうと感じております。

また、第二教区相国会に於きましては、一昨年から「子供研修会」を開催し始めました。日本の未来を荷う子供達（とくに小学校高学年生）を対象にして、本山において坐禅と食事作法の研修をさせて頂いて、午後から金閣寺、銀閣寺等を参拝致しております。般若心経を唱え、坐禅をし、禅文化の詰まった建物に参拝することが、子供たちの精神に必ずや好影響を与えるであろうと信じて行っております。

最後になりますが、「禅は現代社会の人間救済の光明である」と言われております。このような自負をもって、今後とも『円明』を世界に向けて発信して頂きたいと思っております。

『円明』第一〇〇号によせて

第二教区 相国会理事
大應寺総代

波多野 外茂治

機関誌『円明』が創刊五十周年を迎え、その一〇〇号が八月に発行と伺いました。本山相国寺と末寺の檀信徒の強い絆を深める為にも『円明』が末永く刊行される事を希望いたします。内容として、本山の宗教行事、美術館案内、各地の教区ニュース、特に管長猊下のご親教の内容様子をカラー写真入りで豊富に掲載されている事は有難い限りであります。本年九月に管長猊下の御親教を授かる第二教区の檀信徒にとりまして、期待に胸を熱くいたして居るところであります。

さて過日、承天閣美術館に於いて観阿弥生誕六八〇年、世阿弥生誕六五〇年記念として「室町の花々観世宗家展」が開催され、数多くの名品を拝観鑑賞する機会に恵まれました。門外不出の観世家伝来の能面、能装束、文献など百余点の名品が展示され、これらを拝観する事は、愛好家にとり又とない幸な事でありました。西陣に於いて織物業に携わっている者として、特に能装束に強い関心があり、能装束の中でも最も華やかで美しく、染織美術織物として傑出した唐織小袖を取り上げて感じた事をまとめてみました。

鬘物能かづらもの（小面こおもて、若女の面をつけて演能される若くて美しい女性）に使用される唐織小袖の一点「赤地菊桜枝文様唐織」は、本紅花で染色された緯糸よこいと、経糸たていとで錦地が織られ、紅朱地に、白、黄、淺黄、金茶、紺、紫などの多彩な配色の平緯糸で、菊花を裂地きれじ全面に上から裾まで重なり咲き乱れる様に線描で織り上げ、その上に太い桜の枝を飛び枝として配し、唐織の特徴である縫取技法ぬいとりにより立体的に表現されている。植物染料で染色されているので、複雑な色合の重なりが長い歳月によりやや退色して渋味を帯びた美しい色となっている。可憐な中に高貴な趣を湛えた逸品である。

もう一点「赤地枝垂桜糸巻唐織」は、濃厚な赤朱色の裂地に上部から下方の裾にかけて無数に咲き誇る枝垂桜の花が全面を覆い盡し、唐織独特の縫取技法により桜花と五色の糸巻が立体的に表現され、豪華な趣を溢している。華麗にして妖艶な美を持つ第一級の唐織として、観世家シテのきまり物であり、「道成寺」などに使用されている。

この時期の作品として他に一点、徳川秀忠公よりの拝領品として観世家に伝わる「紺地金襴の拾狩衣こんじきんらん あわせかりぎぬ」にも心魅かれた。西陣で国産された初期の作品との説明があり、この地に於いて職人達が研鑽けんさんを積み長い年月をかけてその手法を深めて行った事が理解される。

また、蜀江錦しゅうかうきん、金欄きんらん、厚板あついた、摺箔すりはく、縫箔ぬいはく等の名品もあり、これらの技術は室町時代から江戸時代にかけて中国よりもたらされたものであり、我が国に於いて開花した染織美術の

宝として、かけがえのない文化遺産なのである。

このように、相国寺の西に広がる西陣地区と観世家とは切っても切れない深い絆で結ばれており、相国寺開基の足利三代將軍義満公から土地を拝領したという観世家邸跡には、今日でも「観世井」「観世水」と呼ばれる井戸が大切に保存されている。

『円明』第一〇〇〇号によせて

第三教区 宗議会議員
福圓寺住職

大谷 昌弘

『円明』五十周年、第百号を迎える運びとなり、大津歴堂管長猥下はじめ村上慈海宗務総長様やご尽力下さった皆様、大変喜んでおられることでしょうか、おめでとうございます。

さて、『円明』が創刊された昭和三十八年前後は、新幹線、カラーテレビ、東京オリンピック、スポーツ（オリンピックでは多数メダルを獲得し、「巨人・大鵬・卵焼き」の言葉も）、大阪万国博覧会等々の科学文明、物質文化に於いては著しい発展を致しました。「衣食

足りて礼節を知る」という言葉が日本にはありますが（もう死語になっているかなあ）、衣食は足りましたが礼節はどうか？「豊かさの中の貧しさの時代」になりました。

戦国時代に来日した宣教師ザビエルは、「日本人は驚くほど(1)謙虚・控え目で、礼節を知っている(2)断然、恥を知っている(3)驚くほど勉強好きで学問を尊重する」と本国に書き送っています。日本の道徳の根底は、聖徳太子の「篤く三宝を敬い・」の『十七条の憲法』や「徳・仁・礼・信・義・智」の『冠位十二階の制』に始まりましたが、戦後日本全体が経済復興中心の考えを推し進めてきた結果、物質文化は豊かになりましたが、精神文化はどうなったのか、現代社会では安全安心の神話は完全に崩れ、ひたたくり、通り魔、詐欺等々の心配があつて迂闊に人を信用したり、表を歩けなくなりました。真の人間としての生き方はむしろ後退してしまいました。これはどうしてこうなってしまったのかと思うとき、核家族化が主な原因ではないか、と思うのは私だけでしょうか。

教育には『家庭・学校・社会』の三つの分野がありますが、現代社会では家庭教育はどのうなっているのでしょうか。「三つ子の魂百まで」です。人間教育の基本は家庭であり、我が子供のころは家庭教育の中心は勉強よりも「他人に迷惑をかけない」「人に後ろ指をさされるな」であつた。人間は一人では生きていきません。集団生活の基礎・基本を学ぶ最初は家庭教育ではないか。家庭内で「長幼の別」「尊敬」といたり「我慢」等を学び、神仏

を祭ることも(日本には八百万やおよろずの神様がおられます。例えば、流行歌にもなった「トイレの神様」、そして「知恩(恩を知る)」「感恩(恩に感謝)」「報恩(恩に報いる)」を知らず知らずに教わりましたが、今の核家族の家(マンション等)では、畳がない、床の間がない、仏間がない家も多く見られ、人権尊重、プライバシーの保護等から個室ばかり(昔の冠婚葬祭は、襖を外せば広間になり、ほとんど家で済ませたものです)。

マイホームを持った若者はローンを組み、その返済のために夫婦で懸命に働いている姿が見受けられます。その為、子育ては最大の負担で、ゼロ歳から保育所へ預け、親の身勝手で母乳を与えない母親がいるとか?また、子供の食事は「個食・孤食」となり、「戴きます(合掌)、御馳走さま(合掌)」の言葉もなく、一家の団欒は少なく、家庭の躰はなおざりとなって教育困難を引き起こしています。

現在社会問題にもなっている『いじめ』にしても、なぜ学校や教師にばかりに責任を、その前に自分の子供の心の変化を見抜くことができなかつた親の責任はどうか、現在の物事の考え方は、原因を他に求め、責任を相手に負わせ、自分は少しも反省しない人が増えていきます。我々が子供の頃の親は「うちのガキが悪い」「いや、うちの方こそ」と、お互いに相手の親に謝を入れていたものです。今は自由や権利をはき違え、義務を果たさず権利の主張ばかりで勝手主義になり、行政が盛んに『共に生きる社会です』とPRに

懸命でも他人の事まで構ってられない、と知らぬふりの人が多いようです。その上、行政が隣保づくりを進めても煩わしいと参加を渋る家庭が増えていきます。

人間として最低限守らなければならぬ基本的な道徳心や生活習慣を、教えることの出来る大人や親が少なくなってきたことは非常に残念です。

現在の日本人には宗教的情操(宗教心)がうすれ日本の将来が危惧される昨今、我々僧侶が何をなすべきか、真剣に考え行動を興すべきではないだろうか。『円明』が創刊されてから半世紀の歴史の重みを振り返りながら、五十周年は一つの節目です。

いま、私たちが何を伝えていくかによって、次の五十年が大きく変わります。今回の五十周年を節目に、新たな百周年に向かって更なる発展を祈念致します。

合掌



『円明』第一〇〇号によせて

第三教区 相国会理事
福圓寺総代

小川 武義

「継続は力なり」と申しますが、半世紀に渡って『円明』を発刊され、百号と成りました事、お慶び申し上げます。

私が『円明』を知ったのは、両親の月命日にお参り下さったご住職様に『円明』を頂いたからです。それまでの私は、仏教関係の知識は皆無に等しい状態で難解でしたが、教科書だと思って一生懸命読ませて頂き、色々な言葉、名称等を少しずつではありますが覚える事が出来ました。と同時に、仏教聖典を見ながらですが、「般若心経・消災呪・大悲呪・世尊偈」を声に出して唱えるうちに、少しずつ色々な事が理解出来る様になり、朝夕のおつとめも気にならずに、それどころか気持ち「無」の状態になり、身も心も楽になる気分です。

また「相国会本部研修会」に何度か参加して坐禅を体感し、又そのうちにその良さも少し解かるようになりました。

以前、新聞で管長様の『私の履歴書』を拝読させていただき、有馬管長様の人となり、ご苦労大成される迄の道程を知る事が出来て感激致しました。

世界遺産の姫路城の西約一キロの住宅地に囲まれたなだらかな丘陵地一帯には、総面積二九・四ヘクタールの近代的な墓地公園が広がっており、その中に仏舍利塔があります。この仏舍利塔には、昭和二十九年四月十二日にインドの故・ネル首相から日本とインドの両国民の友好と人類の恒久平和を願って贈られた「仏舍利」を納めた厨子が安置してあります。平成十八年に、ボランティア活動への参加を決心し、姫路市民のシンボルでもある姫路城を遠くに望むこの場所ので、施設管理、参道維持等の巡回を日々行うことは至福の一時です。

毎月八日(四月八日は「花祭り」)で特



墓苑内にある仏舍利塔

に盛大)には合同慰霊法要があり、準備に追われ大変ですが、奉仕の精神で仲間と一緒に来苑される皆様の安らぎの場所となる様に頑張っています。

この『円明』がきっかけとなり、大いに啓発されたことに感謝致します。編集部の皆様、『円明』第百号の発刊を心待ちに致しております。

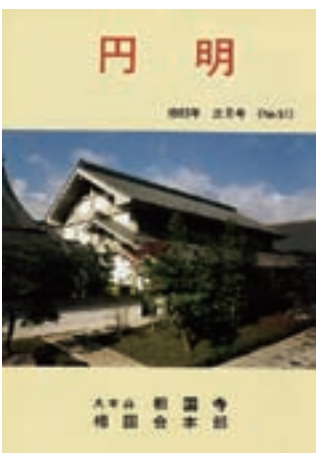
合掌

『円明』第一〇〇号によせて

第四教区 宗務支所長
善應寺住職

五十嵐 祖傳

『円明』第百号、おめでとうございます。昭和三十八年の創刊ということですが、私が現在住職を務めている善應寺に入寺をしたのが昭和六十三年の秋でしたので、私が初めて拝見した『円明』は、平成元年の正月号です。何号であったかなと思います、取り置いてある『円明』を手にとってみました。



「あれっ、こんなに小さかったっけ」

そうです。以前の『円明』誌は、現在のものより随分と小さく、頁数も少ないものでした。「円明」という誌名もゴシック体で、こう言ってはなんですが、実に味気ない装丁です。近年の『円明』誌の装丁の美しき、誌面の見やすさ……、『円明』も進化したものだと思います。

表紙には、「1989年 正月号(No. 51)」と表示されていました。号数は五十一。年数を考えれば多分そうだろうとは思っていたのですが、やはり、五十一。ということは、今回の第百号は、私にとって五十冊目の『円明』誌ということですが、それがどうしたと言われそうですが、第百号が背負っている五十年の歴史のちょうど半分、ここで住職をしてきたのだなど、この間の二十五年をいろいろと思い出すことができました。

この第五十一号の第一頁の宗会議員、宗務支所長の一覧を見ますと、第四教区の宗会議員は、西安寺の住職でありました木下正堂師、宗務支所長は真乗寺前住職の木下雅章師と記されていました。お二方とも既に遷化されています。平成になつての二十五年の間に、当教区の住職の顔ぶれも随分と変わってしまったものです。閑栖和尚は別として、住職されていた和尚を数えてみると、遷化または引退された住職は、十五名です。その間に新しく住職となった和尚が十五名であれば良かったのですが……。平成元年の頃、

当教区二十九ヶ寺のうち、有住寺院は十八ヶ寺、兼務寺院は十一ヶ寺でした。平成十年頃は、まだ、有住寺院が十六ヶ寺ありましたが、現在は、有住寺院が十一ヶ寺、兼務寺院が十八ヶ寺と平成元年当時とは逆転してしまいました。この状況は、改善される見込みがほとんど無く、大変憂慮しています。『円明』第一五〇号が発刊される頃は、当教区の有住率がせめて五〇%くらいまで戻っていて欲しいものだとの底から願っています。話を第五十一号のことに戻します。この号は、実は、平成元年の正月号ではありません。この号には「平成」の文字はどこにもありません。「平成」に改元されたのは一月八日です。…昭和六十四年の正月号です。この次の号は、「平成元年 お盆号」の様な表記になっています。第五十一号だけが西暦表記なのか、第五十一号までが西暦表記なのか、教えていただきたいと思っています。ちなみに第五十一号の発行日は、なぜか、「平成六十四年七月一日」となっていました。はて…。



『円明』第一〇〇号によせて

第四教区 相国会理事
円福寺総代

伊藤 彰

百号の発行、お祝い申し上げます。

『円明』は本山と末寺・檀家を結ぶ「かけはし」であり、管長猥下のお考えご活躍、宗務総長様のお考え、本山の活動・行事、他教区末寺の活動等を知ることができ、夏と正月の発行を楽しみに待っております。

また、表紙や宝物拜見での美術品の紹介では勉強させていただいております。浅学の私にとりましては、第九十九号の大涅槃図で御釈迦様の母親が投げられた妙薬が、投薬の語源だと恥ずかしながら初めて知りました。

しかし、何と言っても最も楽しみにしているのは「御親教」の記事です。各寺院早くから住職様と檀家が力を合わせ境内整備等準備され、当日は総出で管長猥下御一行を迎えられているその喜びや熱意が写真や感想文からよく伝わって来ます。

私の菩提寺、円福寺も平成二十年に「御親教」を受けました。五十嵐支所長様より最大のおもてなしは「隅々まで掃除をして、多くの人でお迎えすること」と教えていただき、檀家全員でそれを実行してお迎えしたことを昨日のことのように思い出します。

本山・末寺のつながりを強くすることは重要です。その意味で、お互い顔を合わせた「御親教」は非常に良く、遠かった本山が身近に感じられる様になりました。また、住職様と檀家の一体化、そして、檀家の菩提寺護持に対する意識の向上も図れ、この良い状態を永久に継続させることが末寺役員の責務とっております。

今の末寺にとつての大きな問題は檀家の「お寺離れ」です。地元から都会に出る人の増加、仏事に対する考え方の変化(宗教離れ)等々で今後は何もしなければ確実に檀家は減り、また、檀家の気持ちもお寺から離れていきます。残念ながらこれを防ぐ妙薬はありません。当円福寺では「御親教」をきっかけとして、お寺は一部の人ではなく檀家全員で支えるものとの考えで、檀家誰もが幅広くお寺に向いてもらえる「しくみ」づくりや、お寺へ出向く機会を増やすことに取り組んでおります。

次に第四教区についてですが、本教区には二十九ヶ寺存在し、菩提寺以外については、お寺の名前・場所、役員名・顔等案外知られておりません。まずは全二十九ヶ寺を知ることから始め、末寺役員がお寺(第四教区は兼務住職寺院が多い)を護持していくための良策、悩み等について話し合い、教区全体としてのつながりを深めることが必要と考えております。最後になりましたが、『円明』が今後とも本山と末寺・檀家を結ぶ大きな「かけはし」であり、次は二百号を目指して進まれることを祈念しております。

『円明』第一〇〇号によせて

第五教区 宗務支所長
保壽寺住職

藤岡牧雄

『円明』誌一〇〇号発刊おめでとうございます。

盆・正月に合わせて送られてくる『円明』を当山では本堂に置いて、檀信徒の皆様が自由に持ち帰れるようにしている。法事等でお寺参りの時は、親戚の方々の中で興味を持たれた方が持ち帰られています。

第五教区(出雲)は、本山との距離もあり本派の情報を得にくいのが、『円明』を通して本山の行事や各教区のことを知ることが出来る。『円明』には管長猥下の記事が多く掲載されているので、近年の猥下の行動範囲の広さにはいつも感服させられている。

以前の『円明』誌は今の誌面より小さく、活字も小さかったので読みにくかった。最近誌面も大きくなり、書体も読み易い。それに内容も多岐にわたり親しみが持てる誌面になってきたように思う。これも誌面編纂をされている教学部の皆様方の工夫、ご苦勞のお陰だと感謝しています。

本山相国寺は、知名度が高いとは言えないので、よく所在等の質問を受ける。そのよくな時は下手に説明するよりも『円明』誌を手渡して読んでもらうことにしている。

ただ送付されてくる部数が限られているので、思うように配布できない。『円明』は本派の教義布教、広報の有効な手段として役立つと思うので、送付部数を布教活動の一環と考え増やしてもらおうと有難い。

『円明』第一〇〇〇号によせて

第五教区 相国会理事
西光院総代

黒田儀重

我が家では、シロアリにより土蔵が傾いたため補修することにした。中のものを片づけてみてその被害の大きさに驚いた。数本の柱の下方が食い尽くされ、一部では二階の天井部分まで通り道が出来ているほどであった。

この土蔵の中のものの搬出には手を焼いた。かすかに記憶に残るようなものもあったが、こういうことがない限り生涯見ることもなかったであろう大量のガラクタ類がほとんどである。ボロボロの本など中身を見もしないで捨てていったが、偶然被害を受けていない箇所の中に一冊の薄い冊子があった。これがなんと『円明』の創刊号であった。

創刊は昭和三十八年八月とある。この頃は日本が戦後からの復興を果たし、経済が大きく伸びていく時代である。この年出雲地方は豪雪と豪雨に悩まされた。祖母がひもでくるんでくれた手提げカバンを背中におぶって雪の中を這うようにして学校まで行ったことが思い出される。

創刊号を手にとって見ると、昔祖父から聞き及んだことのあるような、山崎大耕老師、大津歴堂管長、村上慈海総長などの名前がある。そしてその文章に触れてみて、当時の世相、『円明』の由来、発刊に対する経緯や想いなど興味深く拝読させていただいた。

今回、創刊号の発刊から半世紀を経て百号を数え、これまで続けてこられた関係者のご努力に対し、感謝と敬意を表したい。今後も機関紙として宗門の話題や取り組みなどタイムリーな話題や仏教の教えなどが掲載され、次の世代へと受け継がれていくことを願っている。

ところで、出雲相国会ではその活動の一環として、「親子坐禅会」を開催している。子供たちにとって、最初少し勇気のいるイベントらしい。そのひとつにケイサクで打たれることへの抵抗がある。しかし、参加した者の中にはケイサクに打たれることに挑戦したり、楽しみにしたりしている者もいる。今年こそはと勇気を振り絞っている子がいる。打ってもらった後でほっとした気持ち、すがすがしい気持ちになっているに違いない。



親子坐禅会

これからも、宗門はもとより地域社会に貢献する相国会の活動、運営であり続けたいと願っている。

この催しは子供たちの将来をより豊かな、幸せなものにするため、またいろいろな人との出会いやふれあいを通じ郷土を愛し、住みやすい地域を作っていく、そんな思いから続けている。これからも「親子坐禅会」を続けていきたいと思う。坐禅の心は『円明』の心に通ずる。世の中、人の心を救うのに仏教は大きな役割を果たしている。仏教は先人の知恵の結晶であり、これに触れることは人を人たらしめ、人の進むべき道を照らし、人を幸せにするありがたい教えであると思っている。

「夢窓国師に学ぶ」

第六教区 宗務支所長
光明寺住職

松本憲融

「大本山・相国寺」、正式名称「萬年山・相国承天禪寺」の御開山様は、夢窓疎石むそうそせきという方です。実際には、春屋妙葩しゅんおくまうはという方が足利義満に請われて創建に関わりましたが、既に故人であった師であり叔父である夢窓国師を御開山様に勧請されたのです。

その御開山、夢窓国師の法話を集めた『夢中間答集』と呼ばれる書物の中に「伊勢詣りの書」と呼ばれる部分があります。

ある時夢窓国師は、故郷にある伊勢神宮に参詣したいという念願を持ち、遂にはその念願を叶える事になります。現代では神道と仏教は別々の道を歩んでいる様に見えますが、歴史的には盛んに交流していた時期があり、国師の参詣も別の神様を参詣するといふ感じではなかったのかも知れません。

鳥居をくぐり、橋を渡り、五十鈴川で手を洗い、口をすすぎ参道を進むと社務所より禰宜ねいさんが出て来て伊勢神宮の様々なお話を国師にされたそうです。その中にこの様な話があったそうです。

「天照皇大神様は、清らかな心が大好きで汚れた心が嫌いなので、神社やお寺に必

ずある御賽銭箱を伊勢神宮では置きません。賽銭箱を置くとは参詣者の人は賽銭を投げ入れ、自分勝手な事を申し述べます。これは汚れた心の表れなのです。ただお札を述べて帰るのが正しい神詣りの仕方なのです。」

全ての願い事は私利私欲であり心の汚れであるから、神前或いは仏前で本来は訴えてはいけません。「今日も無事暮らさせて頂いてありがとうございます」とお札を述べて帰るのが本当は正しいお詣りなのです。

正月の初詣から始まり除夜の鐘まで、ともすれば人々は一年中願い事のオンパレードです。願い事の為に詣りする人を、しない人よりは幾分かマシだから世間では「信心深い」とか「敬虔」だとか言います。しかし信心とは神仏をあてにする事ではありません。

伊勢神宮への参拝を「おかげまいり」と申します。人は自分だけで生きていると勘違いしてしまいがちですが、大きな力のお蔭があつてこそ生きる事が出来るのです。その有難さを忘れて、自分の願い事を叶えてくれと更に欲深く垂れ流すものではありません。自分自身の身勝手な心を反省し、ただただ感謝する事が大事だと御開山様はお伝えになつておられます。

最後になりましたが、此の度は『円明』百号記念、誠におめでとうございます。

『円明』第一〇〇号によせて

第六教区 相国会理事
感應寺門徒会

萩原健一

一〇〇号と云うことは、五十年ということになります。五十年は人生の大半であります。想起すると、いろいろな事が思い浮びます。喜びも、悲しみもと云いますが、喜ぶことの方が少なく、憂い、悲しむことの方が多かったように思います。

「世中を、憂しとやさしと、思へども、飛び立ちかねつ、鳥にしあらねば」

山上憶良『万葉集』(八九三)

手元に、『円明』第九号(昭和四十二年八月発行)があります。丁度、明治百年の年であつたらしく、明治維新前の先哲のことが記されていました。また、今は亡き感應寺先代住職の記事もありました。その内容もさることながら、先住恵徳和尚の思い出が、胸の奥から突き上げる何かがありました。

第六教区は、鹿児島県と宮崎県にわたり、昔の国名で、日向、大隅、薩摩の三国であります。日向は神代からの国名で、日のあたる所、大隅は大隅半島で、太平洋に面し、薩摩

は西の「つま」で東支那海に面します。奥三国と云われ、中央と遠く離れています。中国大陸に面し、南島に接しています。文化の交流も緊密で、古寺、古陵、古社が各地に散在しています。

遭難、漂着も多く、推古天皇十七年(六〇九)、百濟僧、道欣等八十余人、呉の国に行こうとして果たせず、芦北の津に漂着、また唐僧鑑真が天平勝宝五年(七五三)に着いた所は、防津ぼうのつの秋妻屋浦でありました。

飛鳥、奈良の仏教が盛んになり、天平十三年(七四一)全国に国分寺、国分尼寺が建てられますが、薩摩には、それより早く建てられていた寺が散在します。坊津の一乗院、谷山の慈眼寺じげん、串木野冠岳の頂峯院、川内せんだいの泰平寺等、創建が飛鳥時代にさかのぼります。泰平寺だけが奈良時代の始めになります。



「いじめ、体罰、自殺、そして世の中のひずみ」

第五教区 霊雲寺住職 三代 政道

先般来テレビ、新聞、週刊誌などに毎日のように様々な報道、意見が報じられている。「いじめ、体罰、自殺」について、大きな時代のひずみを感じ、地区の慰霊祭で法話をしました。

体罰をなくすべき事は当然のことです。しかし「いじめ、自殺」については、教育委員会の動きや、教育評論家などの言うことには、極めて保身的な意見や、手前勝手な主張が多く、かつて教師として特に生徒指導に長年関わってきた者として、強い憤りを感じています。

とりあえず、一番端的に言いたいことは、このようなことが起こる原因は、根本的には核家族時代、少子高齢化時代、働く家族の多忙、さらに携帯電話、スマートフォン、メール、インターネット、ツイッターなどによって、大人も子供も人間同士の血の繋がった付き合いが少なくなったことなどが原因です。子ども達や教員や親達が悪いのではなく、

世の中のすさまじい変化に人間が対応出来ないのです。

特に欠けているのは「三つ子の魂百まで」という子育てが出来ていないこと。子供は早熟、ところが親達は超多忙。しつけの役をしていた祖父母は核家族で別居、或いは早熟な子供の知識について行けないのでしつけが出来ない。その上地区によっては近所の人達との交わりも希薄。それらの結果、人の心の痛みが分からなく、独りよがりでもままで、人の命も自分の命も、命は一番に大切なものだということさえ教わっていない子ども達が随分います。そういう子ども達を、今後どのように育てていったらいいかがこれからの大きな問題です。

もともと家庭での幼い頃のしつけは、両親と祖父母の役目です。「三つ子の魂百まで」人間の基礎作りです。やがて反抗期が来ます。子供によってまちまちですが、反抗期には両親に強く反発をしますので、しつけは祖父母の役目になります。

小中高の時代には外部の方達がしつけをしてくれるようになります。今日では幼稚園、ボーイスカウト、部活動、町内行事、コミセン行事などでしつけを受けます。競争の激しい大人社会の中でも、挫折せず通用する人間に段々育てられて行きます。

ところが最近になって急にブレイキのきかないような子供が増えてきました。最初のところで触れたように、急激な社会の変化のため皆がついて行けなくなったためだと私は思います。いじめが多発し、遂に自殺する子が現れるような痛々しい時代になりました。

現状を記してみますが、田舎では卒業生の不良のような者が親分のようになって、その手先となつていじめを実行する生徒がいるという組み合わせが多いようです。都会ではもつとひどく、やくざ、暴力団などとながり、その手先となつて極悪非道を繰り返す子分のような生徒達が存在し、いじめだけでなく傷害や恐喝を伴う犯罪行為が多発しています。いじめられる子といじめの実行犯の子供には、家庭の苦勞を感じる場合が多くあります。

学校が、教員が、何故動かないかという批判がよくあります。地区によって色々状況は違いますが、校長などが細かく点数などで評価される時代になると、とかく保身の心が働いたり、色々気遣うことが多くなったりします。対応のために努力している教員はもちろん居ます。

先日九州から来られた各地を布教して歩かれる説教師さんの言によると、ひどいいじめの実状を掴んで、校長に何故指導に動かないかと言うと、暴力団などに繋がっているのでも動けないと頭を下げられたとのことでした。この説教師さんは保護司ですので、役に立てなかったことを大変残念がっておられました。

他方では、学校教育や教育委員会への批判続出で、教育評論家やいじめ被害の父兄などが、学校は隠している、駄目な教師ばかりだななどと非難の声を上げています。或いは新しい育て方として、叱るな、褒めろという本が随分売れているようですが、親に育てられている年齢でも、しつければ必ず褒めることと叱ることによって身に付けて行くべきです。親や子の性格、その時々々の状況によって、褒めることと叱ることを上手に使い分ける事によって、子供は成長して行きます。優しさとたくましさの両面を持った子供に是非育てておかねば、現代の厳しい世の中には絶対に対応できません。そしていじめられる側は、いじめを防ぐためとにかいい仲間を持つことが大切です。親がそういう努力をすべきです。

それにしてもごく最近、思い掛けないような時代の変化が起こりました。就職活動が原因で自殺する者が急増しているという新聞記事です。全体の自殺率が減っているのにこういう若者の自殺率だけが激増しているのは、明らかにたくまさが欠けていることが原因です。

さらに中学生くらいの年齢で脱法ハーブを使用したり、もう少し年上の者がおれおれサギの手先として使われたり、その脱線振りはすさまじいものがあります。悪い大人の餌食になっているのです。説教師さんと私は、昼食を食べながら色々語り合



ました。

時代の変化をごく単純に猛烈に非難する人がありますが、現代の世間のひずみを検討するには、もう少し広く実状を知るといふ時間が必要でしょう。

よく「世界に誇る日本人の道徳力(思いやり)」と言われます。礼儀正しい。街はきれい。子育てもきつと立派にやれるはずです。「三つ子の魂、百まで」人間の基礎は幼い頃に作られ、年を取っても変わらないと言われます。「いじめ」などをなくすためには、この三つ子の魂を立派に育てることが一番大切なことで、不可欠なことだと思えます。

「三つ子の魂」は、人間の一生の土台作りとなると昔から言われていますが、ではどのように幼い子の心を育てて行くか。私は若い頃、有馬頼底管長猊下から叱咤激励されて寺を継ぐ決意をしました。従って、愛情の中にも常に厳しさを持って子供を育てて行くことを期待します。

お釈迦様は『観音経(妙法蓮華経)』の中で、「人間の心の悩みは、自分の心のひずみがある原因だ」と述べておられます。ではどのような人間になればいいか。それを端的に表しているのが、『延命十句観音経』の中の「常楽我浄」という言葉だと思います。

私の寺の本堂正面の入り口の頭上に、この四字を彫り込んだ木の額がありますが、私は我が家のお土産として、この「常楽我浄」の言葉を皆さんに覚えて貰っています。その

時に分かりやすい解説として「欲にとらわれてあれこれ言葉や態度を変えることは、結局自分を不幸にする」「色々なことをプラス思考で、いい方にいい方取る事が幸せにつながる」「各自が本当に自分を大切にすれば、結局他人も大切にすることになる」「教えるに従って清く正しく美しく生きよう」。こういう言い方で説明しています。

「三つ子」のしつけの中心は、先ず親達自身がこういう生き方をし、次にそのような子供に育つよう努力をして行けばいいと思います。

子供向けの分かりやすい表現に変えれば、一番大切なのは「命」。「命を大切にしよう」です、次に「強く逞しくあれ」、そして「ありがとう」という「感謝」、最後に「思いやり」の「和」だと説明しています。

具体的には、次のようにすることをすすめています。日常生活において親子が一緒に仏壇に手を合わす。一緒に墓参り寺詣りをする。法事時には親子と一緒に読経する。お経本には振り仮名がついているので、親子競争です。子供の方が生き生きしています。親子坐禅会などでも、親子が一緒に育って行きます。

子育ては農業の野菜育てと同じです。種をまき、丈夫な苗を育て、畑に移植し、適度の水や肥やし(愛情)をやり、消毒(しつけ)をし、育つのを(待つ)。この優しさと厳しさと時間が必要です。

最後に自作の詩で思いを述べたいと思います。

「三つ子の魂百まで」

いじめ 暴力 自殺
すさまじい

世の中の嵐

悪いのは子供か
親達か

それとも学校か

時代の猛烈な変化に
ついて行けない家庭が
随分あるためだ

思いやりと和を大事にし
しかも強く逞しい

子ども達を育てよう

一番大切なのは命だ
仏の前で一緒に

手を合わせよう

「三つ子の魂百まで」
この言葉は
今でも大切な言葉だ



「長福なる御縁」

第四教区 長福寺先住寺庭 武田 佐智子

相国会々員の皆様には、つつがなくお越し御事お慶び申し上げます。いつも御本山に御参詣出来る事をこの上なき光栄と存じ上げます。

本年春に、若狭相国会開催の「春の布教会」が潮音院様で行われました。布教師には南禅寺派長福寺住職原田太胤師(神戸市長田区・十三まいりを行う)をお迎えされ、そのお説教に参加する機会を得て、寺族としては思いもかけぬ思い出を懐古されましたので、ほんの一頁を述べさせて頂きます。

『昭和二十年三月十七日 長田にて戦災に合う』

終戦の年に神戸にて家族で戦災にあって、B29により焼夷弾が落され、焼死体が散乱し燃えさかる中、私の父の故鈴木元泰(当時の南禅寺派長福寺住職)が御本尊を本堂より抱き運び出しました。何もかも焼けくずれたる中、お蔭様で私達弟妹両親は逃げまとい、

命だけは頂きましたが、落下した弾のカケラが母の顔に入ってしまったのです。もしもそれが背負っていた生後二ヶ月の妹に入っていたら、と思います。今日御本尊があるのはと、その時を思いかえすと胸があつくになります。

その当時、御本尊は仮安置で近寺の南禅寺派福聚寺様にお預りして頂き、私達姉弟は集団疎開で着のみ着のまま鳥取行きを命ぜられ、夜になると神戸の方を向いて「お父さん、お母さん、お休みなさい」と涙ながらにとなえた事が忘れられません。国民学校五年生であった私は、その時の福聚寺総代さまの御名前もはつきり覚えており、現在その御子息(私と同年代の方)が同寺総代である事をお聞きし、仏縁とは思わぬ所より始まるのだと感じます。

その後、福聚寺様が若狭第四教区の相国寺派常津寺様と御因縁があり、また父が戦前に若狭潮音院で徒弟をしていたこともあり、私達家族は神戸から若狭高浜の地に身を寄せ、同地の常津寺の御母堂様から「小鯛の佃煮」とか手の込んだ御料理を頂きました(最近迄、常津寺さまを兼務させて頂いていました)。終戦後、父が十三まいりを行う長田の長福寺に復興のため、毎月若狭から神戸へ出かけるようになったのです。

今回「布教会」の為に、若狭に来られた神戸市長田の長福寺現住職の原田師から「常津寺様に到着しました。皆さんよい方ばかりですよ。」との電話あり、これは何もかも仏縁であると感じ、まるで目の見えない雲の中を仏様が導いて下さるかのようだと感じました。そして三月十日、潮音院様での布教会に私もお参りさせて頂くことができました。原田師がどんな思いで此の老寺族を待つて頂いたことでしょうか。時のたつのも忘れ、面談の時間をしばらくとって頂き、檀中様には十三まいりについての冊子を御贈呈頂き、戦時中まで神戸に在住した私達のこと迄もお調べ頂き、薄れゆく記憶を再び呼び戻して頂きました。お話を聞いた後、寺へ帰ってから、御仏壇の前で両親に全てを語りましたが、たいそう喜んでいただろうと思います。

現代の様々な世相の有り方についてはうまくお話し出来ませんが、後世にこの話を伝え、御縁のある歴史の大切さに耳を傾けて頂き、人間は一生を大切に、そして常に仏様に接して手を合わし、感謝の心を抱いていきたい、と思う所存です。そして、決して終わることのないこの「心」を、ずっとずっと抱き続けていこうではありませんか。

私は神戸の「長福寺」に生を受け、現在高浜の「長福寺」に御世話になっております。この歳になっても、まだまだ沢山教導される事がございます。

尚、末筆になりましたが、来る十一月九日に當山先代の第二十一世武田正憲和尚の十七回忌法要を挙行の予定で、これもよき記念になるでしょう。

「四十代になったときの夢の中での出来事」

第四教区 向陽寺檀家 寺井 富三郎

『我が家のお墓は皆様と離れて山にあり、お寺の和尚様方のお墓のさらに上なのです。そこに、筍が芽を出してお墓を倒したので、筍を押し倒してお墓を元通りに直している』という夢を見ました。

朝になるのを待ちかねて、七キロの道のお墓を見に行きました。夢で見た通りでしたので、「南無阿弥陀仏」と唱和しながら、墓石を正常に戻しました。ご先祖が私を呼ばれたものでしょう。

「なほ枯野 父を葬むる 山遠し」 富三郎

俳句は、山口誓子先生に五十年ほど師事しました。先代住職も俳句が好きで、棚経にお越しになると俳句の話ばかりしていました。「涅槃図」に葉袋がひっかかっていると承知していましたが、このとき理由を初めて知りました。ついでながら、象を知らない絵師達が足の爪を強調されて象を描いているようですね。

「禅寺の 屋根の雪落つ 一度きり」

「日本海 降る雪すべて 受け容れて」

「若狭路の 古き仏に 走り梅雨」

「餓鬼も乗り 汽水深き 精霊船」

「地藏盆 電車着くたび 鉦叩く」

「棚経に 片言で子か 和してをり」

「僧焚きて 落葉の 煙直上す」



「般若林」

演劇塾 長田学舎 河田洋志

京の夏を彩る「五山の送り火」に、三十六年前、十八歳の私は初めて手を合わせた。

四月に「長田学舎(おさだ塾)」に入門した私に、「送り火」を少しでも良く見える処でと、先輩が堀川丸太町近くのマンションの屋上に連れてくださった。すでに沢山の人がその時を待っていた。不謹慎だが、私は花火が始まるのを待っているような気分でしたように思う。午後八時、如意ヶ岳の「大文字」に火が灯されると、様子は一変——ざわつきは静寂に変わり、人々はそれぞれに手を合わせ始めた。私も思わず手を合わせた——今でも忘れる事のできない光景である。

「演劇のえの字」も知らない田舎者の一からの演劇修行がこの年から始まり、十月には『町かどの藝能』その三で初舞台を踏ませていただいた。その公演も来年で四十周年を迎える。『町かどの藝能』十周年の一年前、昭和五十九年、有難い御縁で相国寺「般若林」に劇団の稽古場を置かせていただいた。

「一劇団の稽古場として置いていただくのは無い。演劇を学ぶと云う事は、自己を磨くという事。劇団の稽古場は人間修行の場だと信じるおさだ塾だからこそお許しを



『町かどの藝能』倭積み唄のあやつり人形

いただいたのだ。それを肝に命じるように。」と長田先生が、劇団員を集められて話された。

それから今年で三十年——沢山の劇団員が「般若林」で汗と涙を流し、自分を見つめ悩み、そして新たな自分を見つけ学ばせていただいている。巣立って行った劇団員も、何かあれば「般若林」に帰って来る。私達おさだ塾の者にとっては、只の場所では無い。「般若林」は、心のふる里である。ふる里は懐かしむだけでは無い。そこに戻ると、何か新たな力をもらえるような処である。——私たちはそんな「般若林」に、それぞれ形は違いますが手を合わす。それは特別な事ではない。十八歳の私が見た「送り火」に手を合わす自然な京都人の姿のように、それは意識してそうなるものではない。それは、そこで地に足つけて日々暮らしている者には当たり前前の生活だから——

「相国寺拝観のご案内」

相国寺職員 豊田 功

『円明』第一〇〇号発行おめでとございます。今後益々の発展お祈り申し上げます。

相国寺の特別拝観も、平成十二年(二〇〇〇)より春季は三月二十四日から六月四日迄、秋季は九月十五日から十二月八日迄(但し昨年から紅葉の見ごろが遅くなった事もあり、秋季を九月二十五日から十二月十五日迄に変更)開催しており、本年度で十三年目を迎えました。お蔭様で拝観者数も当初の二倍以上の方がお越しいただくようになり、皆様の御支援の賜物と感謝申し上げます。これからも尚一層多くの方がお越しいただきたく、拝観案内業務を担当させて頂いている者として、山内のご案内などを誌面をお借りしてさせていただきます。

相国寺は、明徳三年(一三九二)に室町幕府第三代將軍足利義満公が十年の歳月を費やして建立した禪宗寺院です。京都御所の北側にある総門を入ると、赤松林の奥に応仁の乱など度重なる災禍を経て慶長十年(一六〇五)豊臣秀頼公の寄進により五度目に再建

秋のおさだ塾の自主公演のお知らせ

観客完全参加の終日野外劇

『町かどの藝能』その三十九

「般若林」のお庭に入っすぐの木戸を一步くぐると
其処は江戸時代の京都——
芸商人の芸と商い、観客の笑顔に溢れる
江戸時代の縁日にタイムスリップ

平成二十五年 十月十八日(金)・十九日(土)・二十日(日) 十一時〜十六時 於・般若林(相国寺北門前町)



『町かどの藝能』粟もちの曲づき

おさだ塾は、

この有難い稽古場で、

これからも一時一時を大切に、

皆様の『心のお風呂』にさせていただける

演劇を生み出してまいります。

皆様も「般若林」へ是非お越しください。

お待ちしております。

合 掌

された「法堂」が見えて参ります。御堂の中に入ると正面須弥壇上に仏師運慶作の御本尊釈迦如来と脇侍、阿難・迦葉両尊者が祀られています。

天井までの高さは十^七九^七七^{セシ}、面積は東西二十^一北十五^一で、狩野光信筆の「蟠龍図」が描かれています。特定の場所で拍手を打つと反響するのに驚かされ、「鳴き龍」としても知られています。皆様には、静かに順番を待つて手を合わせていただきます。また、龍は仏法を守護する空想上の瑞獣とされていて、どこに立って眺めても目を外そうとせず八方を睨んでおり、四百年前に描いた絵師の凄さを感じます。昨年の干支は「龍」でしたから、龍年の方が沢山来られました。なかには親子孫三代龍年の家族もおられました。売店では、龍の刺繍をした「お守り」、龍をかたどった「携帯ストラップ」、龍の「色紙」「クリアファイル」などを求めていかれます。

「御朱印」はこの法堂を「無畏堂」とも称して、本来畏れる事なく法を説くためのお堂であるので「無畏堂」と宝印させていただいております。

法堂の東に「開山堂」があります。現在の建物は、文化四年（一八〇七）に桃園天皇の皇后恭礼門院の黒御殿を賜って移築改造したものです。開山夢窓国師をはじめとする祖師像や当山功業者の像などがお祀りしてあります。杉戸及襖の絵は円山応挙とその一派のもので、南庭の枯山水は、手前が白砂敷きの平枯山水、奥の部分が軽くなだら

な苔地築山となっていて幅一^一五十^一程の小川があり、昭和十年頃迄きれいな水が流れていたそうです。この庭は、二様の形態が同居しているめずらしいものです。庭は撮影が許可されていますので皆さんシャッターを押していけます。特に秋の紅葉はすばらしく絶賛のもので、

開山堂を出ると、修復中の「方丈」があります。現在の建物は天明の大火を経て文化四年（一八〇七）に開山堂、庫裡と共に再建されたもので、東西二十五^一、南北十六^一の大方丈です。方丈の語源は、大乘經典『維摩経』



拝観受付で拝観者を案内する筆者

に登場する維摩居士の居室が一丈四方であったことから出来た言葉であり、住職の住む居室を指し、又転じて住職自身のことを「方丈さん」と呼んだりするようになりました。表方丈の前庭は白砂を敷き詰めただけの単調な造りですが、白砂による太陽の反射を利用して室内を明るくするのに役立っています。

この方丈の用途は檀信徒の法要、坐禅会など様々な行事に使用しています。部屋は北三室、南三室の「六間」で一六八畳あります。ふすま絵は江戸時代の絵師原在中はらいちゅうの描いた中国の「普陀落山の図」、当山第一一五世維明周奎いめいしゅうけいの描いた「老梅の図」を始め、遠塵斎おんじんさい（加藤信清）が『法華経ほっけ（妙法蓮華経）』の経文の文字で描いた「法華観音菩薩像（文字絵）」の軸などがあります。

又、裏方丈庭園は深山幽谷の雄大なもので、特に美しい枝垂れ桜は見事です。今秋には修復が終わり、来年の春季拝観から再び来場者にもご覧いただける見込みです。

その「方丈」を眺めながら五十ト程西の方向に散策しますと、中国開封市の大相国寺だいしやうこくじから寄贈された梵鐘と「天響楼てんきやうろう」と命名された新しい鐘楼があります。その北側が浴室「宣明せんみやう」です。「宣明」は十四世紀末頃創建されたものを平成十四年（二〇〇二）に解体修理が行われ、当初の姿に復元されたものです。「宣明」とは浴室の別名で、古代インドで十六人の菩薩が風呂の供養を受けた際、その水によって自ら悟ったとされる跋陀婆羅菩ぼつだばらぼ

薩さつがお祀りしてあります。入浴作法は今日とは異なり、取り湯、掛け湯式のものです。

先人の叡知を肌で感じることの出来る私達の誇るべき相国寺に、『円明』読者の皆様も是非拝観にお越し下さい。お待ち申し上げます。

（編集部注 111ページ拝観案内をご覧ください）



○鹿苑寺開山忌

十一月二十一日、鹿苑寺(澤宗泰執事長)では開山忌並びに開基足利義満公の諷経が厳修された。管長を導師に韜光室老大師、山木宗務総長はじめ一山ならびに縁故寺院尊宿により諷経がなされた。

○本派布教師巡教

十二月五日より十二日までの八日間、本派布教師の松本憲融師(第六教区光明寺住職)が熊本県人吉市と球磨郡の妙心寺派寺院八ヶ寺より特請を受け、各寺の「釈尊成道会法要」に合わせて巡教した。

○同宗連第一連絡会

十二月七日、大阪市鶴見区の念法真教金剛寺で、二十四年度第三回同宗連『同和問題』に

とりくむ宗教教団連帯会議第一連絡会が開催され、荒木教学部長が出席した。

○臨黄合議所理事会

一月二十二日、臨黄合議所理事会が新都ホテルにおいて開催され、山木宗務総長が出席した。

○塔頭慈照院特別公開

一月十日より三月十八日まで、慈照院(久山隆昭住職)において京都市観光協会企画の「京の冬の旅」による非公開文化財特別公開が行われた。桂宮家の御学問所である書院「棲碧軒」や茶人千宗旦に化けた「宗旦狐」の伝説がある茶室「願神室」をはじめ、客殿、庭園が公開された。

○第八回臨黄教化研究会

二月七日、八日の両日、花園大学の教堂並びに花園会館において臨黄合議所主催による第九回臨黄教化研究会が開催され、佐分昭文師(第一教区豊光寺副住職)、澤宗秀師(同林光



鹿苑寺開山忌(写真撮影:柴田明蘭氏)

院副住職)、荒木泰量師(同光源院副住職)、牛江宗道師(第二教区竹林寺住職)、加藤幹人師(第四教区南陽寺住職)、鈴木元浩師(同潮音院住職)、松下恵悟師(第六教区永徳寺住職)、松本昭憲師(同光明寺副住職)の八名が参加、また開講式と基調講演には山木宗務総長、矢野教学部長も出席した。また基調講演後、班別で行われる分科会では、矢野部長も加わり盛んな討議が行われ、他派の和尚方と共に研鑽を積んだ。

○臨済宗連合各派布教師特別研修会

二月二十六日より二十八日まで、大徳寺に於いて布教師特別研修会が開催され、布教師会副会長の松本憲融師(第六教区光明寺住職)、石崎靖宗師(第四教区海岸寺住職)の本派布教師が参加した。開講式、理事会などには山木宗務総長、矢野教学部長も出席した。

○辨財尊天社上棟諷経

三月一日、祝聖出頭後、本山境内で修復中の

辨財尊天社の上棟諷経が、管長以下一山僧侶が出頭し、工事関係者列席のもと厳修された。これは、平成二十四年五月七日に行つた堂宇改築起工諷経〔田明九十八号〕参照〕後より行われてきた修復工事が進化した事によるもので、本殿、拜殿、絵馬堂、手水舎の四棟を対象とし上棟された。

○第一教区総会

三月五日、第一教区総会が管長以下第一教区各寺院住職、閑栖和尚、副住職の計十六名が出席して開催された。

○禅文化研究所理事会

三月六日、禅文化研究所理事会が同所にて開催され、佐分財務部長、久山財務部員が出席した。

○定期宗会

三月十二日、各教区から登山した七名の宗会議員、内局員ら全員が出席のもと、平成

東福寺派一ヶ寺を順に布教した。

○二十五年度春期特別拝観

三月二十四日より六月四日まで、今期も法堂、開山堂、宣明(浴室)を公開し、一五、六八二名の参拝があった。秋期特別拝観は、九月二十五日より十二月十五日まで開催の予定である。

○瑞林寺夢窓国師每歳忌

三月三十一日、第三教区瑞林寺(三重県津市・長谷寺高山宗親住職兼務)では開山每歳忌が厳修され、緒方相国寺史編纂室長と荒木教学部員が拝請を受け出頭した。(関連記事89ページ)

○第四・第二教区合同少年・子供研修会

四月二日、平成二十五年度の第四教区若狭少年研修会と第二教区子供研修会が、昨年に引き続き合同開催で本山大書院にて行われた。今回は学童八十七名、寺院十名、役員十六名の計百十三名が参加した。登山した少年少女た

二十四年度定期宗会が本山会議室で開催された。議事に先立ち管長に列席いただき、全員で開山諷経・東日本大震災物故者三回忌追悼諷経を厳修、続いてご挨拶をたまり、松本憲融師(第六教区光明寺住職)を議長に選出して審議に入った。平成二十三年度相国寺派・相国寺本山決算報告、二十五年相国寺派・相国寺本山予算案、承天閣美術館平成二十三年度決算・事業報告、二十五年年度予算案・事業計画案が承認可決された。

引き続き、教化活動委員会から事業報告・事業計画などが行われて終了した。

○春秋巡教

本派布教師による二十五年度定期巡教は、松本憲融師(第六教区光明寺住職)が三月十四(二十二日)にかけて島根県江津市、浜田市、益田市の東福寺派寺院十二ヶ寺を、石崎靖宗師(第四教区海岸寺住職)が四月十七(二十五日)にかけて佐賀県小城市の南禅寺派寺院八ヶ寺、



坐禅をする児童たち

ちは、般若心経、消災呪を唱え、山木宗務総長の法話を聞き、二十分の坐禅を体験した。また、参加記念として本山より数珠とクリアファイヤールが送られ、別室にて本山女子職員お手製のカレーライスを頂いた後、それぞれ次の目的地へと向かった。（関連記事86・90ページ）

○臨黄合議所理事会

四月十一日、臨黄合議所理事会が大徳寺に於いて開催され、山木宗務総長が出席した。

○同宗連総会

四月十一日、浄土真宗本願寺で、第三十三回同宗連『同和問題』にとりくむ宗教教団連帯会議（総会が開催され、江上、荒木両教学部長が出席した。

○辨財尊天社修復落慶法要

四月二十一日、開山忌（月忌）出頭後、本山境内鐘楼「洪音楼」西隣の辨財尊天社修復落慶法要



黙って食事をいただく

が厳修された。三月一日に行った上棟諷経（前述）、そして約十一ヶ月間の工期を経て、この度本殿、拜殿、絵馬堂、手水舎の四棟の修復が完了した事によるもので、当日は午前十時より安座諷経、管長祝語、落慶諷経の順で有馬管長を導師に一山が出頭、総代、仏師、相楽社、工事関係者ら列席した。式後、大書院にて祝宴が催された。

管長祝語は左の如し。

祝語

妙辨滔々上玉臺 妙辨滔々、玉臺に上る
琵琶一曲破寒来 琵琶一曲、寒を破り来る
側聆天衆今何在 聆を側てば、天衆今何にか在る
靈水湃澎喜長催 靈水湃澎として、長えに催すことを喜ぶ

（詳細は巻頭参照）

○慈照寺開山忌

五月二十一日、慈照寺（平塚景堂執事長）では開山忌並びに開基足利義政公の諷経が厳修された。法要に先立ち当寺華務花方 珠寶氏に

よる献花が行われ、引き続き管長を導師に、韞光室老大師、山木宗務総長、京都仏教会事務局はじめ一山尊宿により諷経がなされた。

○日田辯財天春季大祭

五月二十六日、大分県日田市にある西之山辯財天堂で春季大祭並びにお火焚祭が厳修され、有馬管長を導師に、山木宗務総長、矢野教学部長、佐々木契道天正寺住職、澤宗秀林光院副住職が出頭して大般若が転読された。

○相国会本部役員会

五月二十九日、午後一時より本山会議室において、平成二十五年相国会本部役員会が開催された。般若心経一巻を諷経後、相国会総裁の有馬管長、副総裁の山木宗務総長よりご挨拶を賜り、引き続き第六教区理事の萩原健一氏を議長に選出して審議に入った。平成二十四年度事業・決算報告、二十五年度予算案、事業計画案がそれぞれ承認可決された。

また本誌『円明』発刊が第一〇〇号をむかえた事から、本来は今秋開催の「相国会本部研修会」を平成二十六年十月中旬開催に変更し、さらに『円明第一〇〇号記念研修会』として、次代を担う会員を含めて参加を募ることになった。開催にあたっての詳細は、次号以降に掲載される予定。

当日の出席者は左記の通り。

理事 顧問

第一教区	片岡 匡三	平塚 景堂
第二教区	波多野 外茂治	牛江 宗道
第三教区	小川 武義	大谷 昌弘
第四教区	伊藤 彰	欠 席
第五教区	黒田 儀重	藤岡 牧雄
第六教区	萩原 健一	松本 憲融

他、宗務総長以下内局

○禅文化研究所理事会

五月三十日、禅文化研究所理事会が同所にて開催され、佐分財務部長、久山財務部長が出席した。

○観音懺法会

本山恒例の観音懺法会が、六月十七日午前七時半より厳修された。方丈工事中の為、本年も大書院にて参拝客は招待せずに行われた。

◆役配

導師	林光和尚	太鼓	哲永東堂
香華	弘祐西堂	大鈹	賢明西堂
自帰	玉龍大和尚	中鈹	昭文座元
打磬	正道西堂	小鈹	宗秀座元
維那	豊光和尚		

○臨黄合議所総会

六月二十六日、大徳寺において臨黄合議所総会が開催され、山木宗務総長、荒木庶務部長、佐分財務部長、矢野教学部長、江上教学部長、佐分庶務部長が出席した。

昼食に引き続き、臨済宗連合各派布教団理事会が開催され、山木宗務総長、江上教学部長が出席した。

坐禅会のご案内

本山維摩会

毎月第二・第四日曜日開催
(※一月第二、八月第二、第四、十二月第四日曜日は休会です)

相国寺の維摩会は、明治時代に当時の第一二六世萩野独園住職が、主に在家を対象として始めた坐禅会であり、以来歴代の相国寺住職が指導にあたってきた。第二次大戦中より戦後昭和三十八年頃までは、相国寺塔頭大光明寺で開催されていたが、それ以降は再び本山での開催となり、現在に至っている。維摩会の名称の由来は、經典『維摩経』の主人公で、在家でありながら釈迦の弟子となった古代インドの維摩居士からつけられたものである。

会場…相国寺 本山大書院

時間…午前九時より十一時迄

内容…坐禅(九時～十時半)

読経・法話(十時半～十一時)

注意事項…

当日は九時までに必ずお集まり下さい。十人以上で参加の際は、前日までに電話連絡をお願い致します。(電話〇七五―二三一―〇三〇一)

尚、満員の場合はやむなく御断りする場合もございますので、あらかじめご了承下さい。初めての方には、別室で坐禅指導を行います。
威儀：楽でゆったりとしたものが望ましく、肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、ジーパンなどは避けて下さい。

東京維摩会ゆいまかい

平成二十五年の開催日は左記の通りです。

有馬管長坐禅会

九月十四日(土)

十月六日(日)

十一月九日(土)

十二月十五日(日)

(八月は休会です)

会場：東京別院・庫裡事務棟一階

時間：午前十時半より正午頃迄

内容：『寒山詩』提唱、坐禅、茶礼

威儀：服装は、楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、ジーパンなどは避けて下さい。

小林老師坐禅会

八月十日(土)

九月二十八日(土)

十月二十六日(土)

十一月十六日(土)

十二月二十一日(土)

時間：午後一時より二時半迄

内容：『臨濟録』提唱、坐禅、茶礼

威儀：袴を貸与するも、足りない可能性がありますので、服装は、楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、ジーパンなどは避けて下さい。



東京維摩会会場 庫裡事務棟外観



TEL 03-3400-5858

会場入口：前入口より50m南側

会場：庫裡事務棟 1階

〒107-0062 東京都港区南青山6丁目13-12

第一教区

○鹿苑寺不動堂節分会法要

二月三日、鹿苑寺(澤宗泰執事長)の不動堂において、年中行事の一つ、節分会せつぶんえ「石不動明王」御開帳法要、大般若祈祷が行われ、有馬管長猊下を導師に法類寺院が出頭した。不動堂の石室内にある石造の本尊不動明王は、寺伝によると弘法大師作とされ、首から上の病、特に眼病に利益があり、不動講社の講中により手厚く保護されている。法要後は、護摩木焚きが堂前にて行われ、集まった多くの参拝者が入堂し、普段は見る事が出来ない本尊に静かに手を合わせていた。八月十六日にも開帳される。

○出町青龍妙音辯財天「巳年巳日巳刻法要」

五月三日、山内塔頭の大光明寺(矢野謙堂住職)の飛び地境内である出町青龍妙音辯財天(京都市上京区青龍町)において、初の「巳年みどし巳日巳刻法要」が厳修された。妙音堂の本尊は琵琶の宗家である西園寺家伝来で、始め鎌倉時代に描かれた辯天画像を、室町時代に新たに写し直されたものがいわゆる第二伝として伝えられている。

境内の拜殿には辯財天の使いである蛇(巳)の絵馬などが多数奉納されており、また拜殿奥に建つ六角堂はその周囲を回るとご利益があるとされている。恒例の春季大祭(四月二十二日開催)には有馬管長猊下を十二年ぶりに導師に迎えたが、本年の干支にちなみ参拝者が多く、それに応える意味もあり、巳の日である五月三日、巳の刻(午前九時~十一時)より新たな法要を厳修した。当日は晴天のもと百名を超える参拝者があり、矢野住職他、天正寺住職(佐々木契堂師)、眞如寺住職(江上正道師)、豊光寺副住職(佐分昭文師)が随喜した。

諷経後には、事前に受け付けた参拝者の心



鹿苑寺不動堂節分開帳法要



大勢の参詣者(写真撮影:柴田明蘭氏)

願成就の祈願文を住職が回向の中で順に読み上げ、その後堂内で一人ずつお札とお守りを授け、大般若の経本で加持^{かじ}厄除けの肩叩きを行った。この法要は来年以降、毎年巳の月巳の日に厳修される予定である。



住職による加持 (写真撮影: 柴田明蘭氏)

第二教区

○第三回子供研修会

四月二日、午前十一時より本山にて、子供十五名、大人十名が参加して「第三回子供研修会」が第四教区の「若狭相国会少年研修会」と合同で厳修された。

般若心経諷誦、宗務総長御法話、坐禅、食事作法等の研修を終えて、午後からは世界文化遺産の北山鹿苑寺を見学させて頂いた。格別の御配慮を賜り、子供一同感動して下山した。

(関連記事77ページ参照)

○教区総会

四月十九日、午後四時より本山山内塔頭光源院にて、第二教区定期集会在十一名の住職が出席して行われた。例年通り会計報告等を行った後、全員で本堂にて諷経をして総会に入った。

今年で最終回を迎える第二教区「管長猥下

御親教」の詳しい日程が発表されて、了解を得た。薬石を全員で頂いて、下山散会となった。

○大應寺第十六世 久山弘祐住職晋山式

四月二十七日、午前十時半より大應寺(京都市上京区)にて、久山弘祐新住職の晋山式が挙行された。有馬頼底本派管長猥下、澤 大道国泰寺派管長猥下、佐々木容道天龍寺派管長猥下、小林玄徳本派僧堂老大師、山木宗務総長をはじめ一山御尊宿方、出水門中、縁故寺院、天龍僧堂同参僧侶らが随喜し、多くの檀信徒が見守る中、好天氣に恵まれて盛大に厳修された。

新住職は、昭和四十八年生まれ、花園大学卒業後は天龍寺専門道場で修行され、現在本山承天閣美術館に奉職されつつ、法務に専心されています。第二教区のためにも、今後益々活躍されることを期待しています。

(詳細は巻末115ページ参照)



第二教区総会 於 光源院

○南苑寺「不思議な鬼瓦」

鳥取県三朝町みよささの南苑寺なんえんじ（小野塚越山住職）の庫裡の屋根の鬼瓦がにわか注目を集めている。屋根にある十枚の鬼瓦のうち、二対四枚の瓦が見る角度によって表情が違い、正面からは空を見上げるような柔和な顔、横から見るとにらみつけるような形相のように見えるというものである。昨秋、地元住民が写真撮影中にこの表情の異なる瓦に気がつき、本年一月に地元紙『日本海新聞』に取り上げられたのをきっかけに、海外で発行されている雑誌などにも取り上げられたという。さらにこれらの報道をうけて、この鬼瓦を制作した人物の孫（同県倉吉市在住）にあたる人物からの名乗り出もあった。

相国寺派元管長で同寺開基の橋本独山師のアイデアなのか、作り手の遊び心なのかは不明だが、三朝温泉ではこの鬼瓦を「昭和のトリ

ックアート」として観光資源に役立てたいとし、参拝者も増加しているとの事である。

また、長年同寺住職を務められている小野塚師は「鬼瓦は厄除けの意味があり、本尊と共に温泉街を護っていたとされている。」との談話を寄せられた。

○瑞林寺夢窓國師毎歳忌

三月三十一日、午後一時半より三重県津市片田井戸町の瑞林寺（長谷寺高山宗親兼務住職）にて、大本山から緒方香州相国寺史編纂室長、荒木泰量教学部員を拜請し開山夢窓國師毎歳忌を厳修した。当日は時折春雨が降り天候は不順であったが、本堂に於いて佐々木家供養の諷経後、國師生誕地記念碑前において大悲呪一卷を誦して法要が営まれた。

○天正寺先代住職寺庭逝去

四月二日、大阪市天王寺区の天正寺（佐々木柴堂住職）の先代住職（故山田無禅師）寺庭の



瑞林寺本堂での法要



正面から見た鬼瓦



横から見た鬼瓦

山田トヨ子氏が九十一歳で亡くなられた。長年に亘り寺院護持に勤められたが、今般疾により加療するも薬石功無く天寿を全うされた。

第四教区

○宗務支所 支所会

十一月十三日、善應寺において平成二十四年度の本山団参収支報告、次年度布教巡教等について協議した。

○寺庭婦人会

十一月二十八日、特別養護老人ホーム楊梅苑において、寺庭婦人会が奉仕作業を行った。

○寺庭婦人会 新年例会

一月九日、園松寺において寺庭婦人会新年例会を行い、新年度行事を協議した。

た。児童七十二名、住職八名、相国会役員七名の計八十七名が参加した。一行は鹿苑寺に参拝後、本山にて坐禅研修、齋座を頂き、大秦映画村にて研修。嬉しいことに児童の参員数が、昨年に比べ大きく増加しました。映画村では少し雨に当りましたが、子ども達は大変楽しそうでした。
(関連記事77ページ参照)

○宗務支所 支所会

四月二十五日、善應寺において定期宗議会報告、平成二十四年度教区会計決算、平成二十五年度教区会計予算等について協議した。

○若狭相国会 役員会

五月三日、若狭相国会役員会を開催し、平成二十三年度会計監査及び総会について協議した。

○若狭相国会 総会

五月二十三日、元興寺において若狭相国会総

○宗務支所 支所会

二月十二日、善應寺において定期巡教及び少年研修会、若狭相国会総会日程等について協議した。

○若狭相国会 役員会

二月十六日、若狭相国会役員会を開催し、定期巡教及び少年研修会、総会日程等について協議した。

○若狭相国会「春のお説教会」

三月九日(十一日)、定期巡教にあわせて若狭相国会主催の「春のお説教会」が次の五ヶ寺を会場にして開催された。開教会場は、洞昌寺、円福寺、元興寺、潮音院、海岸寺で、担当布教師には、南禅寺派長福寺の原田太胤師をお迎えした。

○若狭相国会 第四十四回少年研修会

四月二日、若狭相国会少年研修会を開催し



宗務総長より記念品を頂く参加児童

会を開催した。平成二十四年度会計決算、平成二十五年度会計予算等協議の後、妙心寺派宗門活性化推進局副局長の久司宗浩師（岐阜市少林寺住職）を拝請し、「妙心寺派の宗門活性化へのとりくみ」についての講演を頂戴しました。

現在、近未来の当教区にとって、身につまされるお話で、参加者一同、真剣に拝聴いたしました。

○宗務支所 支所会

五月二十四日、善應寺においてお盆施餓鬼日程調整等について協議した。当日夜、海岸寺閑栖松林良岳師が、満八十七歳で遷化されました。師は、昭和六十一年に妙心寺派より転派し海岸寺住職に就任され、平成十一年まで同職として務められた。

○海岸寺閑栖松林良岳師密葬

五月二十八日、海岸寺閑栖松林良岳師密葬

第六教区

○第六教区懇親会

五月十三日、第六教区寺院一同が霧島温泉郷に参集し親睦を深め、翌日午前中に分散した。

○感應寺晋山式準備会議

六月十七日、感應寺（芝原一三住職・鹿児島県出水市）において、来る十一月十七日に開催される芝原祥三新命住職晋山式の準備会議を開催し、第六教区寺院が参集した。

が厳修された。尚、津送・新忌斎は、七月十一日に執り行われる予定です。

第五教区

○相国会出雲支部総会

五月十四日、西光院（出雲市斐川町）に於いて、教区内寺院住職・役員が出席し、平成二十五年度出雲相国会総会を開催した。

総会では、平成二十四年度事業報告・決算報告に引き続き平成二十五年度事業計画・予算が審議され承認された。

主な今年度の事業は、夏休み親子坐禅会、本山団体参拝、会報発行等を予定している。



平成二十五年度（雨安居） 相国僧堂 在錫者名簿

京都（南禪）光雲寺徒	和歌山（妙心）観福寺徒
石川（国泰）吉祥寺徒	京都（相国）瑞春院徒
福島（妙心）忠教寺徒	京都（相国）慈雲院徒
中川秀峰	足助厚堂
山田慈康	須賀集信
阿邊宗寛	中山真周

◆ 研修会

「僧侶に必要なリーガルマインド、僧侶のための法律知識」

前々号(第九十八号)、前号(第九十九号)でもお伝えしたように、平成二十四年四月より開催してまいりました櫻井圀郎氏(東京基督教大学特任教授)の連続講座「僧侶に必要なリーガルマインド、僧侶のための法律知識」全十九回が終了致しました。(日程と回数に一部変更あり。第一回―四回は前々号、第五回―十回は前号参照)

平成二十五年 一月二十三日(水)(第十一回)行政法三

「遺骨と墓地・納骨堂」



講演する櫻井圀郎氏

一月三十日(水)(第十二回)宗教法人法一 (宗教法人とは何か)

「宗教法人とは何か?」 ～他の法人と宗教法人の決定的な違い～」

「区別が必要な、宗教団体と宗教法人」 ～両者の混同が混乱を招く～」

「国法と宗法」 ～両者の位置づけと意味・効力。知られていない宗法の問題～」

二月七日(木)(第十三回)宗教法人法二 (宗教法人とは何か)

「宗教法人とは何か?」 ～他の法人と宗教法人の決定的な違い～」

「区別が必要な、宗教団体と宗教法人」 ～両者の混同が混乱を招く～」

「国法と宗法」 ～両者の位置づけと意味・効力。知られていない宗法の問題～」

二月二十一日(木)(第十四回)税法 (宗教法人と税務問題)

「宗教と税」～近年深刻化する宗教課税の意味」

三月二十一日(木)(第十五回)知的財産法 (知的財産と個人情報)

「『境内では撮影禁止』は有効か?」 ～違反して撮影した写真はどうか?～」

「境内建物を撮った写真」 ～著作権、意匠権、パブリシティ権、宗教的権威～」

「僧侶を撮った写真」 ～肖像権、パブリシティ権、プライバシー、著作権～」

「信徒・参拝者を撮った写真」 ～肖像権、プライバシー、パブリシティ権～」

「説教と著作権」 ～録音・録画・筆記・印刷・出版・放送・ネット掲示～」

「特許権・実用新案権・意匠権・商標権・氏名権・パブリシティと著作権」

平成二十五年 四月十一日(木)(第十六回)社会法一 (宗教と広告・商取引・文化財)

「寺院の広告・CMは禁止?」 「知られていない新聞広告基準・民間放送基準」

「宗教活動と商取引の狭間で」 「特定商取引法・風俗営業法などの適用」

四月二十五日(木)(第十七回)社会法二 (宗教と社会問題・国際問題)

「宗教活動と社会問題」 「青少年健全育成条例・暴力団排除条例など」

「国際関係と宗教」 「旅券法、出入国管理法、外国人登録法、関税法など」

五月二十三日(木)(第十八回)憲法 (信教の自由と基本的人権)

「知っておきたい基本的人権」

「『信教の自由』とは何か?」

「寺院に意味のある『罪刑法定主義』『租税法律主義』」

六月二十七日(木)(第十九回)総括

いずれも、講義は午後一時三十分～三時、質疑は午後三時十分～四時三十分、承天閣美術館二階講堂(一部の回は事務棟二階)に於いて開催致しました。

【講義録】

○平成二十四年二月から七月まで計四回

行われた佐藤優氏による研修会講義録

『危機の時代における宗教』が刊行の運

びとなりました。七月下旬発刊の予定

です。

本書の内容

第一講 危機の時代における宗教

第二講 救済宗教の特徴

第三講 民族と宗教

第四講 国家と宗教



○櫻井圀郎氏による研修会『僧侶のための法律知識』全十九回の講義録は、僧侶に必要な法律の基礎知識と具体例を示したわかりやすい教科書として利用して頂けることを目指して目下編集中です。

○「現代問題研修会」の講師・開催時期は未定です。

○「相国寺研究」では、相国寺史編纂室研究員の藤田和敏氏による相国寺研究研修会「宗門と宗教法人を考える―明治以降の臨濟宗と相国寺派―(仮題)」の開催を左記の日程で予定しています。

同編纂室では、これまでに相国寺・鹿苑寺・慈照寺の史料調査を行い、一万七千点以上の史料を目録化しました。今回の研修会では、それらの成果を踏まえ、明治維新から現代に至るまでの臨濟宗と相国寺派の動向について、①明治前期～中期、②明治後期～大正期、③昭和前期、④戦後の四つの時期に分けて論じます。

平成二十五年十一月 十四日(木) 第一回 明治前期～中期

明治維新後の神仏分離令や上地令といった新政府の諸政策によって財政窮乏を余儀なくされた相国寺派の実態、そのような中で教線の維持に尽力した管長荻野独園の活動などについて分析します。

十一月二十八日(木) 第二回 明治後期～大正期

明治三十一年(一八九八)から始まった鹿苑寺・慈照寺での拝観料制度、同三十二年に発生した国泰寺派の相国寺派からの離脱、現行宗制の基礎となった大正二年(一九一三)の「臨濟宗相国寺派紀綱」編纂などについて追究します。

十二月 五日(木) 第三回 昭和前期

昭和十四年(一九三九)制定の宗教団体法などによって、戦時体制に組み込まれた

臨濟宗や相国寺派の動きを明らかにします。

十二月 十二日(木) 第四回 戦後

昭和三十一年(一九五六)に京都市が実施した文化観光施設税に対して鹿苑寺・慈照寺をはじめとする京都市中の社寺が行った反対運動を中心に、宗教法人のあり方について考えます。

いずれも、講義は午後一時三十分～三時、その後質疑応答。
承天閣美術館二階講堂に於いて開催の予定。

受講希望者は、氏名、宗派または職業、住所、電話、メールアドレス明記の上、相国寺教化活動委員会までお申し込みください。相国寺ホームページからもお申し込みできます。
尚、都合によりやむを得ず日程を変更することがあります。

これまでに行った研修会の講義録を

ご希望の方は、手数料一千円を添え、

下記の相国寺宗務本所内教化活動委員

会宛にお申し込みください。

申込先 相国寺教化活動委員会

〒六〇二一〇八九八

京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町七〇一

電話〇七五―三三―〇三〇一

FAX〇七五―二二―三三九九

ホームページ(<http://www.shokoku-j.jp>)

<p>大本山相国寺御用達</p> <p>社寺建築 (株)北村誠工務店</p> <p>〒603-8225 京都市北区紫野南船岡東町45 電話京都 (075) 441-0563 FAX京都 (075) 441-0571</p>	<p>〒604-8356 京都市中京区大宮通錦上ル 電話〇七五八二一三三七二</p> <p>精進料理 上 常</p>
<p>大本山相国寺御用達</p> <p>庭園 設計・施工</p> <p>樋口造園 (株)</p> <p>〒602-8341 京・上京区七本松通中立売下ル 電話 (075) 462-1385 FAX (075) 464-6120</p>	<p>大本山相国寺御用達</p> <p>御法衣・仏具</p> <p>(株)後藤利法衣店</p> <p>〒604-8273 京都市中京区西洞院通三条上ル 電話 (075) 221-4587 FAX (075) 223-0094 フリーダイヤル (0120) 014587</p>
<p>大本山相国寺御用達</p> <p>精進料理</p> <p>矢尾治</p> <p>〒600-8486 京都市下京区高辻堀川町358 電話 (075) 841-2144 FAX (075) 841-2110 http://kyoto-shoujinryouri-yaaji.homepage.jp</p>	<p>文化財堂宇修復保存 大本山相国寺御用達</p> <p>社寺建築 設計・施工 数寄屋建築</p> <p> 澤甚株式会社 澤野工務店</p> <p>本社 〒605-0069 京都市東山区東大路通知恩院前上ル2筋目東入 TEL (075) 561-5394 (代) FAX (075) 533-3775</p> <p>山科事務所・工房 〒607-8126 京都市山科区大塚元屋敷町62 TEL (075) 541-1257 (F)</p>
<p>貴重な御法衣の御用は 大本山相国寺御用達</p> <p>後藤新助法衣仏具店</p> <p>〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地 電話(代表) (075)462-3915番 ファクシミリ (075)462-3616番 URL http://www.rinzai.jp E-mail: rinzai@rmail.plala.or.jp</p>	<p>總本山御用達</p> <p>藤安田念珠店</p> <p>本店・〒604-8072 京都市中京区寺町六角角 電話 (075) 221-3735 (代表) 東京・札幌・福岡 各営業所</p>



<p>祝百号</p> <p>創業明暦年間</p> <p> 七味家</p> <p>〒605-0862 京都市東山区清水二丁目221 TEL (075) 551-0738 / FAX (075) 531-9352 ゴヨウハンチミヤ ☎0120-540738 9:00~18:00 (冬季は9:00~17:00) http://www.shichimiya.co.jp/</p>
<p><i>Future Active Advance</i></p> <p>office やまと</p> <p>パソコンからネットワーク・サーバ構築まで IT環境のトータルアドバイザー</p> <p>本社 〒604-8842 京都市中京区壬生土居ノ内町19-13 TEL: 075-311-9000 FAX: 075-311-9494 中央支社 〒615-0845 京都市右京区西京極大寺18丁目29-62 TEL: 075-322-0110 FAX: 075-322-0770 E-Mail: info@office-yamato.net</p>
<p>税理士 奥谷昌雄</p> <p>税理士 内藤 誠</p> <p>〒602-8026 京都市上京区新町通榎木町上る春帯町340番地 TEL (075) 256-2551 FAX (075) 255-7461</p>





ANA
CROWNE PLAZA
KYOTO

世界の歴史都市、
京都の中央に位置し、
世界文化遺産「二条城」の前に佇む
ANA クラウンプラザホテル京都。

ANAクラウンプラザホテル京都

〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前
Tel 075-231-1155
www.anacpkyoto.com

大切な文化財を始め、建物の安全と安心の為努力しています

電気設備工事・消防設備工事

ADACHI 是立電気工業株式会社

〒601-8045
京都市南区東九条西明田町34-21
TEL 075-681-4461 FAX 075-681-9767
E-mail: adachi-d@guitar.ocn.ne.jp



社寺庭園・町屋庭園・露地庭
作庭 管理



長岡造園

〒616-8305 京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町13-3
電話 (075) 872-0005 FAX (075) 872-0004

印刷を極め、印刷を超える——

ヨシダ印刷グループは、生産力・機動力・開発力・発想力を結合し、
お客様の最適な情報伝達のために、
なくてはならない製品・サービスを提供する事で、
社会の発展に貢献します。



ヨシダ印刷株式会社 京滋営業所

〒604-8277 京都市中京区西洞院通り御池下ル三坊西洞院町572-4 NOA高松殿ビル6階 TEL.075-252-5421
[本社] 金沢 [支店・営業所・工場] 東京・金沢・大阪・京都・富山・福井 URL <http://www.yoshida-p.jp/>

創刊100号ころよりお喜び申し上げます



感動のそばに、いつも。

(株)JTB西日本 団体旅行京都支店

〒600-8421 京都市下京区綾小路通烏丸西入童侍者町167 NBF四條烏丸ビル2F
TEL. 075(284)0173 FAX. 075(284)0175
担当：酒井 健次（営業時間 9:30～17:30 / 土・日・祝日休業）

なが——い、おつきあい。



貯める、運用する、借り入れる、積み立てる、備える、管理する…
京都銀行は、人生のさまざまなシーンで皆様を応援します。お気軽にご相談ください。

飾らない銀行

 **京都銀行**

<http://www.kyotobank.co.jp/>



二条城前のロケーション
温かいおもてなしでくつろぎのひとときを…

お食事・ご婚礼・各種パーティーに
ぜひご利用下さいませ

京都国際ホテル

〒604-8502 京都市中京区堀川通二条城前
TEL.075-222-1111(代)

<http://www.kyoto-kokusai.com>

あなたの、豊かな
人生のために。

三菱UFJ信託銀行のライフプラン・コンサルティング

三菱UFJ信託銀行は資金運用をはじめとする、
資産全般にわたる運用のご相談を承ります。

資金の運用

不動産のご相談

資産の管理・承継

 **三菱UFJ信託銀行 京都支店**

〒600-8006
京都府京都市下京区四条通高倉東入立売中之町85

TEL.075-211-7161

届出第6号 (一社)不動産協会会員 (一社)不動産流通経営協会会員
(公社)首都圏不動産公正取引協議会加盟

電話受付/平日9:00~17:00(土・日・祝日等を除く)

祝・100号

www.shoyeido.co.jp



香



大本山相国寺御用達

香老舗 **松榮堂**

京都本社/京都市中京区烏丸通二条上ル東側 TEL 075-212-5590 FAX 075-212-5595
東京支店/東京都中央区日本橋人形町 2-12-2 TEL 03-3664-2307 FAX 03-3639-4969
札幌支店/札幌市中央区南 8 条西 12 丁目 3-6 TEL 011-561-2307 FAX 011-563-3502

京都本店 産寧坂店・大阪本町店・銀座店 人形町店 青山香房・札幌店



先人たちの賜物を伝えていく仕事。

DNP

デジタル再製画「伝匠美」www.dnp.co.jp/denshoubi/

大日本印刷株式会社 www.dnp.co.jp

御法衣・御袈裟・御水引・戸帳・打敷

華蔓・御晋山式用品一式・稚児装束

各大本山御用達

橘兵 草木兵助商店

〒604-0024 京都市中京区衣ノ棚通御池上ル西側
電話 (075) 221-0934 番 振替京都 01090-4-3476

抹茶

全国並びに関西茶品評会第一位
自園茶 農林水産大臣賞 29回受賞

有馬頼底管長御好

御濃茶 萬年乃翠

御薄茶 常光



大本山相国寺御用達

宇治 久小山園

京都府宇治市小倉町寺内八六番地
お問い合わせ(0774)20・0909
・ジェイアル京都伊勢丹店
・地下一階 銘茶コーナー
・西洞院店 茶房「元庵」水曜休祝営業
・京都市中京区西洞院通御池下ル
電話(075)223・0909
「取扱店」全国有名茶店・茶道具店
<http://www.marukyu-kojyamaen.co.jp>

祝 創刊100号

大本山相国寺御用達

京表具

絵画・墨蹟・織物・修理・一般表具一式
宗紋襖紙・御殿引手販売元

こう えつ あん
浩悦庵

古文化財保存修理研究所 有限会社 矢口浩悦庵

本社・工房 〒602-8025 京都市上京区衣棚通丸太町上る今薬屋町 318 番地
TEL(075)254-6021 (代)・FAX(075)254-6022
東京営業所 TEL (042)442-0177 E-mail:tokyo@koetsuan.com

<http://www.koetsuan.com> E-mail:office@koetsuan.com



Copyright © 2013 相国寺 All Rights Reserved

『円明』にキャラクターが誕生しました。

名前は「**まるやま にえもん**」です。

相国寺の寺紋「丸に二引き」をデザイン化しました。

手には「りゅうじょうぼっす龍杖くつ拵」、足には「沓」。

相国会の皆様、よろしくお願ひ致します。



相国寺の寺紋は、正式には「離れ二つ引き両」というものです。
「外円の丸」と「二引き」の間が空いているのが特徴です。
他に使用する紋として「五七の桐」(足利家)もあります。

祝

創刊100号

相楽社 25周年

大本山 相国寺御用達
相楽社 一同
(三十二社・五十音順)

- | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------|-------|---------|-------|--------|--------|--------|-------|---------|----------|--------|-----------|---------|--------|-----------|--------|
| 寺本甚兵衛製瓦 | 土橋左官店 | 俵屋吉富 | 田代千治店 | 竹中工務店 | 宝ヶ池建材 | 石材都 | 松栄堂 | 十一屋石材店 | 澤野工務店 | 後藤利法衣店 | 後藤新助法衣仏具店 | 草木兵助法衣店 | 北村誠工務店 | オフィスタケザワ | 上 |
| (瓦) | (左官) | (京菓子) | (左官) | (総合建設) | (建設材料) | (墓石) | (お香) | (墓石) | (社寺建築) | (法衣) | (法衣・仏具) | (法衣) | (社寺建築) | (印刷・事務機器) | (精進料理) |
| ヨシダ印刷 | 山梨組 | やぶ内芸 | 安田念珠店 | 矢口浩悦庵 | 矢尾治 | 丸水設備工業 | 丸久小山園 | 佛光堂 | フジヤ京都支店 | 藤井豊 | 樋口造園 | 波多野電機 | 日本電機商会 | テララ貸物店 | |
| (印刷・デジタルメディア) | (建築) | (看板・塗装) | (念珠) | (表具) | (精進料理) | (水道) | (宇治茶) | (仏壇・仏具) | (ディスプレイ) | (豊) | (造園) | (電気設備) | (電気設備) | (貸し物) | |



京都今出川 鳴き龍の寺

相国寺 秋の特別拝観

平成25年9月25日(水)～12月15日(日)

蟠龍図

※10月18日(金)～21日(月)は行事のため拝観を休止いたします。

拝観時間：午前10時～午後4時

拝観場所：法堂・開山堂・浴室

拝観料：一般・大学生800円／65才以上・中高生700円

※団体割引有り ※行事のため予告なく拝観休止または拝観場所を変更することがあります。

翌年春より方丈公開のため、開山堂公開は最後となります。

お見逃さないよう是非御参拝下さい。



開山堂庭園



開山堂杉戸絵 芭蕉小狗子図 円山応挙・応瑞筆

● 編集後記 ●

◇暑中お見舞い申し上げます。梅雨、酷暑と天候不順の節、相国会会員、本派各御寺院の皆様におかれましては、お変わりありませんでしょうか。また、お盆のご先祖様のお迎え準備はお済みですか。

◇今号は『円明』第100号記念号です。昭和38年創刊以来50年が経過しました。その間折々の諸事は別項「『円明』発刊のあゆみ」と「年表」に掲載されているのでそちらを参照下さい。

誌名である『円明』は相国寺の開山堂が「円明塔」と称されるのに起因しています。後水尾天皇が相国寺第92世西笑承兌和尚に開山堂の別称を依頼した時、師が複数候補を挙げた中から天皇自ら選んで名をつけたと伝えられています。創刊号より歴代の管長、宗務総長ご指導のもと、編集担当の教学部各位のご尽力に改めて謝意を表する次第です。

◇さて今回は、特に第一教区から第六教区的全相国会理事様、宗務支所長様(第三教区は宗議会議員様)にご寄稿頂きました。山本宗務総長には前述の年表を作成監修頂き、また有難い事に多くの原稿を各所よりたまわり、この場を借りまして改めて深く御礼申し上げます。有難うございました。

◇本誌は、相国会会員の皆様と共に半世紀を歩んで参りました。発刊当時の管長大象窟大津樞堂老師は“真の人間としての生き方においては、むしろ退歩し混沌たる世相を提示している現代”とすでに当時を看破され、『円明』が現代人における心の糧となり生活の友となることを願い「伝道誌」としての位置付けを挨拶文で述べられています。その崇高な理念から違わぬ様、編集部一同今後とも精進努力する所存であります。次号からもより親しみやすく、読みやすい誌面づくりを目指しますので、何卒よろしくお願い致します。

◇また記念号として、今回初の全ページカラー印刷化を試み、さらに本誌キャラクター「まるやま にえもん」も登場しました。こちらは今後読者の皆様に親しんで頂ければ幸いです。

(矢野謙堂 記)

えん みょう 平成25年夏号(第100号)
円明 平成25年8月1日発行(年2回)

編集/相国寺派宗務本所 教学部

発行所/大本山相国寺・相国会本部

〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701 TEL075-231-0301 FAX075-212-3591

URL <http://www.shokoku-ji.jp> E-mail kyogaku@shokoku-ji.jp (教学部)

制作・印刷/ヨシダ印刷株式会社 カット/BUN



『円明』誌は、環境にやさしい「水なし印刷」「Non-VOCインキ」で印刷しています。

承天閣だより

Jotenkaku Museum

「金閣・銀閣寺宝展―雪舟・等伯・宗達・そして若冲」展開催

於久留米石橋美術館、有馬記念館

平成二十五年一月十二日～三月十日まで、福岡県久留米石橋美術館と有馬記念館の二館に於いて「金閣・銀閣寺宝展―雪舟・等伯・宗達・そして若冲」展が開催された。承天閣美術館に収蔵されている雪舟等楊、長谷川等伯、俵屋宗達、伊藤若冲の絵画、また重要文化財本阿弥光悦造赤楽茶碗等の名品約一〇〇点を出品展示。期間中地元近郊の多くの絵画ファンや茶道ファン約五万人が訪れ大いに賑わった。展示指導には承天閣鈴木局長が出向、開会式には管長猥下がテープカットに御出杖された。



観世宗家展 展示風景

「室町の花―観世宗家展」開催

承天閣美術館では四月三日～五月二十六日まで「室町の花―観世宗家展」を開催した。本展観は、観阿弥生誕六百八十年・世阿弥生誕六百五十年を記念として行われたものである。観世家は室町時代、足利家の庇護と奨励により能楽を大成し、六百数十年経た現在まで伝統芸能を継承しておられる。この観世家に代々伝わる門外不出の能面・能装束の名品を一堂に展示公開。期間中約一万六千人の来館者を魅了した。また二階講堂では「幻想神秘・織の寶石―佐波理綴展―」を併催。これは光が当たる角度によってオーロラ現象のように色彩が変化する織物で、観覧者は皆、幻想的な着物・打掛・帯・几帳に見入った。



シカミ
◆能面「響」 鎌倉時代 重要美術品
眼・鼻をよせて顔を“シカメル”動作からの名称。
「観世宗家展」に展示



むらさきあざぎだんかすみかえんだいごきりからおり
◆能装束 紫浅葱段霞火焰太鼓桐唐織 江戸時代

唐織は女役に用いる小袖の表着。中国から舶来したとされる。火焰太鼓は宮廷や寺社で舞楽に用いられる大太鼓で、菊と桐を組み合わせ格調高く織られている。

現在の展観

「伊藤若冲の名品展」

～平成二十五年九月二十九日まで

承天閣開館三十周年記念「円山応挙展」

前期平成二十五年十月十二日～十二月十五日

承天閣美術館は昭和五十九年四月開館から、本年を以って三十周年を迎えます。この節目を記念し「円山応挙展」を開催いたします。前期は「重要文化財・七難七福図巻」「大瀑布図」を中心として展示。後期は十二月二十一日から平成二十六年三月二十三日まで、初公開の「応挙筆相国寺開山堂障壁画二十八面」を中心に展観する予定でございます。相国会の皆様にはぜひ御高覧いただきますよう、お待ちしております。

次期展観予定

承天閣事務局

こう ひょう しゃ めい
敲氷煮茗図

円山応挙筆 江戸時代

敲は「たたく」の意味。煮は「煮る」。茗は「茶」。中国唐時代太白山(陝西省)の山中で隠者王休が、溪流に張った氷を割って茶を煎じ、客と喫しながら清談を重ねた、という故事が題材。王休が敷物の上に座し、賓客は琴と巻物を傍らに置く。これから琴を奏で、書画を愛でるのである。煎茶道具を前に、槌を握り水を割る道士と、二人の真剣な眼差しが印象的。

応挙は中国の文人趣味を好んで画題にしている。煎茶は古くから中国の文人や士大夫層に親しまれた。我国には江戸時代前期に、宇治黄檗山萬福寺開山隠元隆琦によりもたらされ、江戸、上方で上流階級に嗜まれた。安永九年(一七八〇)応挙四十八才の作。

作品解説／承天閣美術館 事務局長 鈴木景雲



第二教区大應寺 第十六世

久山弘祐新住職晋山

平成二十五年四月二十七日

写真撮影：柴田明嗣氏



安下所から大應寺へ向かう一行



「山門の偈」を唱える新住職



晋山式法要



晋山式記念撮影

とわ 永遠の安らぎ —石のカウンセラー—

株式会社 石 杖 都 みやこ

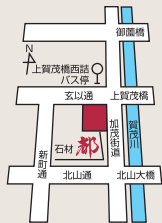


代表 坪田 忠男

年中無休 営業時間/AM8:30~PM6:00 (日曜日PM5:00まで)

本社：〒603-8103 京都市北区小山北玄以町 24 番地 (上賀茂橋西詰バス停前) 電話(075)491-4114(代)
工場：京都市北区上賀茂神山 389 番 24 (洛北病院バス停前) 電話(075)702-2440
夜間：京都市左京区岩倉南池田町 117 電話(075)702-8814

御一報次第、遠近を問わず参上いたします。



心のすがた

「百事諧う」
ひやくじ ととの

多くの物事が調和する。

撮影◎教学部(相国寺境内タチアオイ)